

「フ」ハ前代議士ニシテ活動家ノ評アリ現ニ佛國絹業聯合會及國際絹業聯合會會長トシテ本邦ノ利害關係多キ方面ニ勢力アル點(本年六月七日附通機第五九號高澤領事報告御參照)Europeanハ目下大シテ有力ナリトハ思ハレサルモ經濟ヲ主トシ絹業者纖維業者等ノ關係シ居ル新聞トシテ佛國ノミナラス外國ニモ實業界方面ニ相當讀者アル趣ナルニモ顧ミ旁先方申出ニハ目下經濟界不況ノ際トハ言ヘ蟲ノ良キ點アルモ好意的ニ御考慮ヲ得度シ

里昂ヘ暗送セリ

昭和9年11月15日

在滿州國菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

諸外国企業の滿州國事業參画計画に関する報道は日本側關係業者の反對運動を生起させぬよう配慮すべき旨意見具申

新 京 11月15日後発
本 省 11月15日後着

第一三二一號

十五日東京發國通ニ依レハ「プロサルモパン」會社ハ既ニ滿洲國外交部ノ建築請負ヲ了シ又「セレクシヨントラス」代表者「ブリチー」ハ最近滿洲採金會社ト提携シテ滿洲採金事業ニ協力スル契約ヲ締結シタル趣報シ居レル處兩社トモ主義上ノ合意ヲ見タルニ過キスシテ何等滿洲國側ト契約書等ニ調印シタル次第ニアラス細目ニ關シ目下交渉中ナル次第ハ御承知ノ通ニシテ滿洲國側ニ於テハ日本側關係業者ヲ差措キ獨立ニ本件契約ヲ爲スコトニ關シ日本側關係業者ニ於テ反對運動ヲ起スカ如キ事態ヲ生スルコトニ付甚シク危惧シ居レル此ノ際(右)ノ如キ事實ニ相違シタル報道カ東京方面ヨリ報セラルルコトハ本件交渉進行ニ極メテ惡影響ヲ及ホスモノト存セラレ外交部ヨリモ特ニ申出ノ次第アリタルニ付本件報道ノ出所御取調相成ト同時ニ(右)ノ如キ報道ノ發表セラルルカ如キコト無キ様今後共特ニ御配慮相煩シ度シ

六 雜 件

1 岸本チーフ・セクレタリー復職問題

昭和9年1月8日

広田外務大臣より
在中國有吉公使宛

岸本休暇明け後のチーフ・セクレタリー復職
実現につきメーズ総稅務司ヘ打診方訓令

付 記

昭和八年三月七日付在中國有吉公使より内田

(康哉)外務大臣宛公信機密公第一〇七号

岸本の休暇明け後のチーフ・セクレタリー復職に関するメーズとの往復書簡送付について

亞一機密第一號

昭和九年一月八日

外務大臣 廣田 弘毅

在中華民國

特命全權公使 有吉 明殿

邦人海關吏復任方ニ關スル件

支那海關「チーフ・セクレタリー」岸本廣吉、稅務司津田俊太郎及副稅務司森本實樹ハ豫テ賜暇休暇中ナル處排日氣勢モ漸次緩和シ來リ居リ就中岸本ニ付テハ客年三月四日附貴公使宛「メイズ」親展書信(客年三月七日附貴信機密公第一〇七號添付)ノ次第モアルニ付此等邦人海關吏ノ復任方可然御盡力相成度尤モ此ノ際支那側ニ公式ニ持出スコトハ時期尙早カトモ思考セラレ殊ニ岸本ニ付テ其ノ懸念多キニ付差當リ先ツ「メイズ」邊リニ「サウンド」セラルルコト適當カト認メラル就テハ何等御措置ノ結果御回報相成度此段申進ス

(付 記)

機密公第一〇七號

(昭和8年3月20日接受)

昭和八年三月七日

在中華民國

特命全權公使 有吉 明(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

岸本ノ地位ニ關スル件

本件ニ關シテハ累次電報ヲ以テ申進シ置キタルカ三月三日附本使發「メーズ」宛書翰及三月四日附「メーズ」返翰(六日接到)各寫別紙甲號及乙號ニテ御承知相成度シ尙右ハ本使ト「メ」トノ間ニ極秘ニ扱フコトトナリ居ル次第ニテ「メ」ノ支那側ニ對スル立場モアリ取扱ニハ特ニ御注意相成度シ申ス迄モナキ儀ナラ爲令
本信寫送付先 北平 南京

(別紙ニ号)

Shanghai Office of the Inspectorate General of Customs,
Shanghai, 4th March, 1933.

Private & Confidential.

Dear Monsieur Ariyoshi,

I have received Your Excellency's private note of yesterday's date :

Intimating that in view of the preponderant Japanese trade interest in China you are anxious to retain

His Excellency Monsieur A. Ariyoshi,

SHANGHAI.

583 昭和9年2月28日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

岸本のチーフ・セクレタリー復職は漢口税関
長就任後が適当とのメーズ見解に対する我が
方対処方針につき請訓

上海 2月28日後発
本省 2月28日後着

第一二九號

往電第二九號ニ關シ

件 六 雜
「クゾン」葡萄牙總領事ノ茶會ニテ「メーズ」ト落會ヒタル際「メ」ハ岸本ノ歸任ニ關シ前記電報堀内トノ會談ヲ繰返シ本使ノ意見ヲ求メタルニ付本使ハ兩國關係改善ニ向ヘル今日岸本ノ早急歸任ヲ適當ト認メ居ル旨答ヘタル處「メ」ハ右ハ意見ノ相違ナルカ自分トシテハ敢テ岸本ノ歸任ニ反對スルモノニ非サルモ今直ニ歸任セシメ萬一支那人側ノ反對ヲ招クカ如キコトアラハ取返し(一)著カヌ譯ニテ此ノ點

responsible representation next to the Inspector General in the Inspectorate, and requesting an assurance that Mr. H. Kishimoto will resume the post of Chief Secretary upon his return from his present leave of absence, provided the Chinese Government offer no objection ;

and, with reference thereto, I wish to state that I think that the views you express on the subject are intelligible. It is natural for the Japanese Authorities to desire responsible representation on the Inspectorate Staff, and, provided that the Chinese Government offer no objection and if conditions permit, I would not oppose the re-appointment of Mr. Kishimoto to the post of Chief Secretary-an office which he has successfully administered for some years past.

Believe me,

Yours sincerely,

Signed : F. W. Maze.

To :

ヲ氣遣ヒ居ル次第ナリト述ヘ次テ之ハ全然私見ナルカ例ヘハ當分岸本ヲ漢口(此ノ地位ナラハ歸任ノ見込アリト認メ居ル趣ナリ)邊リノ税關長ニ任命セシメ適當ノ時期ヲ見テC、S、ノ地位ニ戻スコトハ「ラウインド、ウエイ」ナカラ支那側ノ注意ヲ轉換スル上ヨリ見テ一案ナリト考ヘ居レルカ之ニ對スル本使ノ意見ハ如何ト述ヘタルニ付本使ヨリ岸本ハC、S、トシテ有能ナレハ昨年賜暇ヲ與ヘタル際ノ了解通り矢張り右地位ニ歸任セシムルコト必要ト認メ居ル旨ヲ述ヘタルカ「メ」ヨリ重ネテ右私案ニ付考量方希望シタルニ付本官ハ再考ノ上何等ノ意見ヲ述フヘシトテ話ヲ打切りタリ

本件ニ關シテハ往電第八八號及二月十五日附亞一機密第一四號貴信ノ次第ハアルモ前記「メ」ノ私案ニ拘ラス此ノ際岸本C、S、復歸ノ時期明示ヲ求ムルコトハ同人獨リノ爲或ハ却テ不利益ナル影響アルヤニモ考ヘラレ旁成ルヘク速ニC、S、ニ轉任セシムル様了解ヲ取付ケタル上「メ」ノ私案ニ從フコト必スシモ不可ナラスト考ヘラレル處右ニ付テハ岸本ノ意嚮モアルヘク何分ノ儀御回示ヲ請フ(尙本件ニ關聯シ青島來電第五號ノ件ニ付考量ヲ求ムルトキハ自然

岸本轉任ノ時期ヲ長カラシムルカ如キ惧モアリ差控ヘ度キ
積リナリ爲念)

北平、南京ニ轉電シ、上海ヘ轉報セリ

584 昭和9年3月3日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

岸本の漢口税関長就任案には賛成し得ないた
め復職時期明示をメーズに交渉方訓令

第五三號 本省 3月3日後8時発

一、岸本ノ漢口就任ハC、S、復任ヲ遅延セシムル虞モアリ
其ノ他各般ノ事情ニ顧ミ面白カラスト認メラルル次第ニ
テ矢張りC、S復任期ヲ明示セシムルニ努ムルコト可然
(此ノ點ニ關シ岸本ハ右復任期ヲ亞一機密第一四號往信
申進ノ如ク三、四ヶ月後トスルコトニハ「メーズ」トシ
テ相當困難ヲ感スル事情ナキニシモアラサルヘキモ本年
九月末(即チ暑中休暇後ノ職員移動期)トセハ「メーズ」
モ承知スルヤモ知レスト觀測シ居レリ)

二、尤モ右御努力ニ拘ラス復任期ヲ明示セシムルコト差當リ

困難ナルニ於テハ此ノ際ハ『成ル可ク速カニ云々』ノ了
解ニ止メ差支ナキモ休暇ノ延期丈ケハ當分ノ間ト云フカ
如ク曖昧ナラシメスシテ例ヘハ前記ノ如ク九月末迄等ト
明確ニ定メシムル様致度

585 昭和9年3月7日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

岸本の復職時期をめぐるメーズとの協議について

上海 3月7日後発
本省 3月7日後着

第一三七號

貴電第五三號及第五五號ニ關シ
五日夕「メーズ」ノ來訪ヲ求メ先ツ本使ヨリ往電第一二九
號「メ」ノ申出アリタル後岸本ヨリ接到セル同人ト「メ」
トノ往復書翰(亞一機密第一四號)ニ依リ貴下カ岸本ノ賜暇
ヲ數箇月延期ヲ希望シ居ラルル旨ヲ承知シ岸本ヲ一時的ニ
漢口ニ任命セントスル案ヲ充分考量シタルカ元來岸本カ
C、S、ノ要職ニ居ルコトハ日本政府及國民ニ於テ極メテ
重要視シ居ル次第ナレハ此際同人ヲ漢口ニ任命スルカ如キ

コトハ到底政府及國民ノ同意ヲ得難ク若シ自分ニ於テ之ヲ
承認センカ各方面ヨリ非難ヲ受ケ極メテ困難ナル地位ニ立
ツヘキコト勿論ナレハ貴下ニ於テモ右ノ點ヲ考量ノ上成ル
ヘク速ニ岸本カ復職シ得ル様取計ハレタシト述ヘタル處
「メ」ハ漢口任命案ハ支那人側ノ注意轉換ノ外賜暇一年後
ニハ half pay トナル岸本ノ利益ヲモ考ヘ(之カ爲既ニ昇給
セシメタル趣ナリ)又此際復任方ニ付支那政府ノ同意ヲ取
付クルコトハ四圍ノ情勢ヨリ見テ到底困難ト考ヘタル結果
案出セルモノナルカ實ハ打明ケテ謂ヘハ自分ハ近ク短期間
ニテ賜暇歸國ノ豫定ナルカ留守中岸本ニ於テI、G、ノ職
ヲ代行スルコトトモナラハ支那人側ノ反對ヲ招ク惧多分ニ
シテ若シ問題起ル場合ニハ取返シノ附カヌコトトナルヘク
左レハトテ岸本歸任ノ爲自分ノ賜暇ヲ變更スルハ諸般ノ關
係上忍ヒ難キコトナレハ右自分ノ立場ヲモ考ヘラレ今暫ラ
ク岸本ノ賜暇ヲ延ハサレタシト答ヘタ(レ)ハ本使ヨリ然ラ
ハ例ヘハ暑休明ノ九月ニ復任セシムルコトトシテハ如何ト
述ヘタルニ

「メ」ハ税関ノ賜暇ノ時機ハ四月十五日ト十月十五日ト内
規セラレ居ルニ付大体十月迄延期セハ夫迄ニハ税関内外ノ

狀況モ更ニ改善セラルヘク其際貴官ノ御斡旋ヲモ煩セハ支
那政府當局ノ同意ヲ取付ケルニモ好都合ナルヘシト述ヘタ
ルニ付本使ヨリ右ハ致方無シトシテ自分ノ立場モアリ此ノ
際復任ノ時機ヲ明確ニスル爲十月ニ復歸セシムルコトニ付
貴下ノ明確ナル言質ヲ得度ト述ヘタルニ「メ」ハ元來本件
岸本ノ賜暇ハ岸本ノ希望モアリ自分ト同人トノ談合ニ基キ
之ヲ定メ貴公使ノ諒解ヲ得タルモノナルカ此ノ際自分限リ
ニテ復任ノ時機ヲ言明スルハ不可能ナレハ大体右ノ程度ノ
諒解ニテ満足セラレ度ト答ヘ本使ノ注意ニ依リ岸本ニ對シ
テハ十月迄賜暇ヲ延期スルコトニ電報スヘシト述ヘタリ

三、本件ニ付テハ其後ニ於ケル本邦對支貿易ノ變遷モアリ
「メ」ノ意向ヲ無視シ此ノ上ニ無理遣ニ復任ヲ迫ルモ其結
果岸本ノ立場ヲ徒ニ困難ナラシムル丈ニテサシタル效果モ
無カルヘク旁差當リ右ノ程度ニテ満足シ尙今後必要ニ應シ
機ヲ見テ更ニ督促スルヨリ外途無シト存セラル爲念

三、尙其節「メ」ハ支那側ニ於テ密輸防止ニ付日本側ノ有效
ナル協力ヲ希望シ居ル旨ヲ述ヘ前記期日前ニ於テモ例ヘハ
日本側ノ同意ニ依リ大連ニ支那税関ノ設置ヲ見ルカ如キコ
トモアラハ岸本ノ復任ハ直ニ實現セラルヘシト述ヘ居タル

ニ付本使ハ南京宛貴電第二三號ノ趣旨ニ依リ密輸防止ニ對スル日本ノ關心ヲ説明スルト共ニ大連ニ支那稅關設置ノ如キハ今日到底問題トナラサルモ岸本ノ復任ハ全然別個ノ問題ナレハ密輸問題ニ引掛得サル旨ヲ力説シ置ケリ
北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

~~~~~

586 昭和9年4月28日 広田外務大臣より  
在中国堀内臨時代理公使宛

横浜寄港中のメーズとの会談要領に関する岸  
本より重光次官宛書簡および岸本をして回答  
させたメーズ宛返書伝達について

亞一機密第四八號

昭和九年四月廿八日

外務大臣 廣田 弘毅

在中華民國

臨時代理公使 堀内 干城殿

岸本歸任ニ關スル「メーズ」ノ談話ニ關スル件

過般「メーズ」横濱立寄ノ際（下船セス）同人ト岸本トノ間  
ニ種々話ヲナシタル由ナルカ右内容ニ付「メーズ」ノ希望

悪化せしむる如き手段を取る事ハ不合理にして且つ不得策なりとの理由の下に部下支那人関員を押へ且つ支那政府にも其旨を献言し幸ひに事なきを得たり其後無湖稅務司（日本人）が同地引揚に際し豫て内命し置ける主旨を誤りて『日本領事の命令に従ひて引揚げたり』との報告を支那政府に差出したる為め大問題を惹起し同稅務司を免職すべしとの議ありしが自分は同稅務司の過去に於ける功績を理由として百方辯護せる結果幸ニ無事ニ解決せり、其他日本人関員ニ對してハ進級其他公平ニ取扱ひ居れり、右之行動之為め支那政府側ニ於て自分を以て親日なりと目し居る恐れあり、且つ支那人の関員中ニハ自分の親日的なるに不満なる者多きニ見受けらる、若し自分か親日なりと見らるゝに至れば啻に自分が支那政府の信任を失ふのみならず自分が日本人関員の為めになす進言は採用されざるに至るを以て日本人関員の為めにも極めて不利益之結果を来すべし、故に自分ハ極力支那政府をして自分の親日に非ずして日本人関員を庇護するは支那自体の利益の為めなるを信ぜしむる様ニ勉め居れり今次日本經由歸國之

ニヨリ岸本ヨリ重光次官ニ對シ別紙甲號爲ノ通内密傳達越シタルヲ以テ次官ハ岸本ヲシテ「メーズ」ニ對シ別紙乙號寫ノ通回答セシメ置キタル趣ナリ右御含迄（別紙丙號爲參照）申進ス

尙別添本信寫在南京總領事ニ轉達方可然御取計相成度

甲號 横濱寄港ノ節「メーズ」ノ談話

別紙 乙號 岸本ノ「メーズ」宛書翰

丙號 岸本ノ守島課長宛書翰

（別紙甲号）

横濱寄港之節のメーズ氏の談話

「メーズ」氏ハ岸本ニ對し之れは重光氏ニのみ話し他にハ絶対ニ秘密にすべしとの前提にて次の如く述べたり

第一上海事変之後及大連海關獨立直後ニ於て海關に於ける日本人関員を全部解雇すべしとの議論あり殊ニ一部支那人関員よりは之れに關して請願書まで自分ニ差出せるものありたるが日支間にハ宣戰之布告ありたるに非ず海關が日支間の政局に先行して日支間の關係を更ニ

際重光氏其他親友の招待を受くる事を躊躇し且つ東京見物迄見合せたるは実ハかゝる用意に外ならざるを以て宜敷御諒察を願ひたい

今秋岸本の歸任問題に關しても以上の如き事情にて此上自分より進むで岸本を支那側ニ推薦するに於てハ支那政府ハ益自分を以て親日と思ふべく余の推薦を許可せざるべし故に余ハ十月七日上海に歸任の豫定故其節十五日にハ岸本の休暇満了するが以前之通りチーフ、セクレタリに任命して可なりや

と支那政府に請訓すべきが其丈にてハ許可さるゝ望み少なきに依り日本公使ニ於て蔣介石又ハ汪兆銘と他の問題に關し交渉せらる節徐々に此問題に觸れ日本人をChief Secretaryに歸任せしむる事を承諾せしめ此点に關し財政部長に命令を下し置く様に差向けられたし如此支那政府の空氣を訂正し置きて其處へ自分より請訓する時ハ必ず許可さるべしと思ふ、之れハ決して自分か責任を免れんか為めニハ非ずしてかくせざれば成功し難しとの自分の意見に基くものなり右ニ關して重光氏ハ如何なる意見を有し居らるゝや承知したきもの

なり云々

第三、尚「メーズ」氏ハ

日本政府ハ何故ニ岸本の漢口税務司任命を承諾せざりしや

を尋ねたるを以て岸本ハ

日本政府ハ日本人が総税務司の次席たる事を欲し此地位を確守する決心を有する故岸本が一時的にでも第三位に下る事にハ承諾を与へ難かりしと思ふ、公使が総税務司と交渉する際にもチーフセクレタリーは総税務司次席たるものとの前提の下ニ此地位を請求せるものなり

と答へたるに、メーズ氏ハ更ニ

然らば日本政府ハ副総税務司の任命さるゝ時ハ日本人以外の国籍の者にハ反対するや

と尋ねたる故岸本ハ

絶対反対すへしと思はる

と答へ、メーズ氏ハ

若し日本人を副総税務司にせば副総税務司ハ当然I、G、の後継者なるを以て英国政府ハ之れに反対すべし、

此点ハ如何考なるや

と云ひ岸本ハ

自分の考へにてハ日本ハ総税務司の地位を要求し居らざるを以て副総税務司か日本人ならば満足する事と思はる、故に必ずしも総税務司の後継者にハ非ざる旨の諒解の下ニ日本人を副総税務司ニ任命する事も不可能にハ非るべし

と答へたり、尚「メーズ」は

岸本歸任ニ関し日支間に豫備交渉を「メーズ」氏かサゼストせる事か支那側ニ知れてハ自分も非常ニ困り且つ其後の問題の解決にも支障を来す故此事ハ絶対に秘密に願ひたし

と追加せり

以上ニ対する岸本の批評

「メーズ」氏が其動機の如何ハ別として邦人関員を庇護せるハ同氏所述の通りにて邦人関員一同之れを認め居り其為めに同氏か親日的なりとの疑惑を支那政府及支那人関員間ニ抱かしめしも亦事実なりと信ず、岸本歸任ニ関して日支

間の豫備直接交渉を提議せるハ一面同氏の責任逃れの如きも若し同氏ニ一任し置きてハ事実上成功疑はしきものあり、従来関員問題ニ関してハ総税務司ニ対する思惑上日支間の直接交渉を差控へ居られたるものと思はるゝか「メーズ」自身歴代総税務司の傳統的主張を捨て、日支間の直接交渉を望むは、一面絶好之機会を得たるものと云ふべく、日支関係の好轉するに連れて大ニ利用し得べきかと思考さる、

件 六 雑  
尚岸本の代りを勤め居る Lawford の處置ニ関しても「メーズ」は大ニ頭を痛めつゝあるものゝ如く前述岸本との會談の結果ニ依りてハ「ロ」氏を副総税務司として問題を解決せんとの意思ありしにハ非るや疑はる、去れば若し岸本の歸任の問題を日支間に交渉せらるゝ場合にハ此点を考慮ニ容れ、常ニ総税務司の次席と云ふ事を主張され度きものなり、副総税務司の地位を日本か要求すべきや否やは日支関係の好轉の程度如何ニより決せらるゝべきものならんも Chief Secretary なる間ハ常ニ其間ニ英國人又ハ支那人の副総税務司の任命さるゝ恐れあり之れを防ぐ意味ニ於て早晩日本に於て之れを要求して然るべきものにてハ無きや、

副総税務司ハ形式及事実共ニ支那政府の任命ニよるもの故(総税務司の部下なりと雖トモ)総税務司も一目を置く必要あり Chief Secretary などよりも独立性多く日本の為め更に便宜多かるべし、特に Chief Secretary ハ停年制ニより三十五年勤續之上ハ退職する必要あるも副総税務司ハI、G、同様停年制の束縛を脱し得べきを以てなり

(別紙ニ号)

Tokio, 14th April, 1934.

Dear Sir Frederick,

I have duly conveyed your confidential message to Mr Shigenitsu. For obvious reasons I avoid repeating your message here in writing but you may rest assured that I have stated it word for word. I may only mention that I have requested Mr Shigenitsu to take special care not to let the C\_ Government suspect that the suggestion comes from you.

In reply Mr Shigenitsu has wished me to convey to you his appreciation of your endeavours to protect the

取次がゐる事に相成居候間此点御含み置き被下度願上候

敬具

四月十七日

岸本 廣吉

守島大人

~~~~~

587 昭和9年8月28日

広田外務大臣より
在中国有吉公使宛

Shigenitsu

With kind regards,

Yours sincerely,

亞一機密第一〇五號

昭和九年八月二十八日

(別紙丙号)

拝啓

「メーズ」氏宛書信写封入致し候右ハ御承認を得る方宜敷
かるべしと存じ未だ投函致さす候間御一覽之上必要あらば
可然御訂正被下度願上候、

尚先日差出置候「メーズ」氏の談話中第一が「メーズ」
氏より重光氏への「メツセージ」に有之第二は「メーズ」
氏か岸本と Confidentially に相談せる處にて外務省にハ

在中華民國

外務大臣 廣田 弘毅

特命全權公使 有吉 明殿

岸本復任問題ニ關スル件

一、本件ニ關シ目下倫敦滞在中ノ「メーズ」ヨリ岸本ニ對シ
別紙寫ノ通ノ書翰ヲ寄セタル趣ヲ以テ全人ヨリ本省係官
ニ對シ右「メ」ノ言分ハ同人ト我方トノ間ノ約束ニ違ヒ
例ヘハ to have a Japanese Commissioner highly

placed in the Inspectorate ナル語句ヲ用ヒ Chief Secre-

tary 等ノ字句ヲ避ケ居ル點等ヲ指摘シ「メーズ」ハ其ノ
留守中ノ代理タル「ローフオード」ヲ岸本復任ノ際如何
ニ處置スヘキヤニ付相當困難ヲ感シ居ル模様ニテ(曩ニ
岸本ヨリ「メ」ニ對シ其ノ際ハ「ロ」ニハ休暇ヲ與ヘ歸
英セシムルコト可然旨獻言セルコトアルモ今回ノ歸英ニ
際シ「メ」ハ英國政府ヨリ「ロ」ヲ何等カノ形式ニテ總
稅務司ノ次席タル地位ヲ保タシムル様要求セラレ居ルヘ
シトモ想像セラルトノコトナリ)成行警戒ヲ要スト認メ
ラレ旁々岸本ノ「チーフ、セクレタリー」復任ノ實現ヲ
「メ」ノ取計ニノミ委セ置クハ不得策ナルヤニ思考セラ
レ此ノ際「メ」累次ノ「サゼツシヨン」ノ如ク我方ヨリ
直接國民政府側ニ運動スルコト適當ナラスヤトノ趣旨ヲ
申出テタル趣ナリ

三、元來本件ニ付テハ「メ」ト我方トノ間ノ約束(一九二九年
三月「メ」ト芳澤公使間ニ交換セル書翰及一九三三年三
月「メ」ト有吉公使間ニ交換セル書翰参照)ニ基キ「メ」
ハ我方ニ對シ(一)岸本ヲ「チーフ、セクレタリー」ニ推薦
スヘキ義務及(二)支那政府ニ於テ反對アル場合モ岸本ノ任

命實現方斡旋スヘキ義務(「メ」ノ努力ニ拘ラス國民政府

カ飽迄岸本ノ任命ニ反對スル場合「メ」ニ於テ之ヲ押シ
切り任命スル義務ハ勿論ナキ譯ナルモ)ヲ負フ譯ナリ

三、然ルニ近來「メ」ハ動トモスレハ前記義務ヲ有耶無耶ニ
セムトスル傾向アリ現ニ今回ノ書翰ニ於テモ(一)「チーフ、
セクレタリー」ト言ハスシテ前記ノ如ク語句ヲ曖昧ニシ
居ルノミナラス(二)支那政府ニ於テ反對アル場合ハ最早自
分ノ關知スル所ニ非ス爾後ノ交渉ハ専ラ日本政府ニ於テ
ナスヘキナリト述ヘ居ル次第ナリ

四、從テ我方カ「メ」ノ「サゼツシヨン」ヲ其ノ儘受入ルル
態度ヲ示スニ於テハ「メ」カ我方ニ對スル義務ヲ免レム
トスル^(英 勝也)恨^(英 勝也)懣ニ乘セラルルコトナル虞アルニ付我方トシ
テハ「メ」ニ對シテハ引續キ右義務ヲ「リマインド」シ
テ其ノ努力ヲ求ムル方針ナルカ只實際問題トシテハ岸本
ノ休暇ハ來ル十月十五日ヲ以テ滿了スルニ對シ「メ」ノ
歸任期ハ同月七日ニシテ其ノ間僅少ノ豫^(英 勝也)猶アルノミナル
ニモ顧ミ此ノ際我方トシテハ「メ」ヲ督勵スル一方同人
ノ「サゼツシヨン」トハ別ニ我方獨自ノ計ヒトシテ國民
政府側ニ對シ岸本ノ復任方ニ付可然申入レヲナシ置クコ

ト適當ナルヘシト存ス

五、就テハ「メーズ」歸任前適當ノ機會ヲ捉ヘ例ヘハ汪兆銘若ハ孔祥熙邊リニ對シ岸本復任方懇懇セラレ度又「メ」歸任後ハ以上御含ノ上同人ニ對シ岸本ノ復任ニ付斡旋方ヲ求メラルルト共ニ我方ヨリモ内々國民政府ヘ申入レ置キタル次第ヲ告ケテ「メ」ヲ「エンカレッヂ」シ遣リ以テ本件ノ實現ヲ期スルコトト致度

六、尙岸本ハ「メーズ」來翰ニ對シ一應返翰ノ要アル趣ナル處(右返翰ノ内容ハ「外務省ハ岸本復任實現方ニ關スル貴君ノ充分ナル努力ヲ期待シ居レリ尤モ自分ハ日本官憲ハ貴君ニ對シ右期待ヲナシツツ實際上ハ貴官ノ努力ニ對スル地均シトナルヘキ措置ヲ執ルモノト了解ス」トノ趣旨トセシムルコト適當ト思考シ居レリ)萬一貴方ニ於テ前記四末尾乃至五冒頭ノ如ク此ノ際我方ヨリ國民政府側ニ「アツプローチ」スルコト時宜ニ適セスト認メラルルカ如キ事情ナキヤ右返翰ノ都合モアルニ付此ノ點至急回電アリ度尙別添本信寫在南京總領事ヘ轉達方可然御取計相成度

(別紙)

London, 21st June 1934

Dear Mr Kishimoto,

Your letter of the 21st ultimo has been received. You state therein that S expects you to return to your old post "as set down in my correspondence with A". It seems to me that he may not fully understand the position because, as I think you know, I informed A. (unofficially, of course) that "provided the Government offered no objection and provided conditions permitted, I would not oppose your re-appointment to the post of Chief Secretary". The Japanese desire to have a Japanese Commissioner highly placed in the Inspectorate has always seemed to me reasonable, and so far as I am concerned would be supported. I do not know the existing situation, but should the Chinese offer objection to your re-appointment, it is obviously the business of the Japanese authorities concerned to take whatever action they consider proper to remove such opposition. I made this clear to A., and, this being so, it is difficult

for me to understand the remarks which you quote as having been made by S. Moreover, it appears to me that unnecessary difficulty is being engendered by the Japanese support extended to Edwardes here and in Manchuria.

Yours sincerely,

~~~~~

588 昭和9年9月3日 在英国松平大使より  
広田外務大臣宛(電報)

岸本の復職問題に關し中国側を説得すべきと  
のメーズ見解について

ロンドン 9月3日後発  
本省 9月4日前着

第四六八號(極秘扱?)

先般支那總稅務司「メーズ」賜暇ニテ歸英セルカ本使ヲ來訪シ岸本氏復職ノ件ニ關シ縷々苦心ノ次第ヲ述ヘ殊ニ自分ハ曾テ南京政府カ日本人海關職員全部ヲ免セントセル際ニ頑トシテ反對セルコトモアリ南京政府ヨリ動モスレハ日本ニ好意ヲ示シ過クルカ如ク誤解セラルル虞アルニ付同氏ノ

(欄外記入)

副總稅務司復職ニ對シ南京政府ニ於テ同意スレハ自分ニ於テ何等異存ナキモ自ラ南京政府ニ之ヲ「プレッス」スルコトハ甚タ機微ナル結果ヲ來スニ付日本側ニ於テ直接蔣介石ヲ説得セラルル方宜シカルヘシト述ヘタルニ付本使ハ本件ニ付テハ今日迄何等承知セサルモ總稅務司ノ地位ハ單ニ支那政府ノ命令ニ服シ居ルノミニテハ海關從來ノ組織權威モ破壊セラルル虞アルニ付總稅務司ニ於テ今少シク積極的ニ支那政府ニ運動セラレテモ差支ナキニ非サヤト述ヘタル處「メ」ハ頻ニ其ノ困難ナル事情ヲ述ヘ同氏ヲ海關ニ復職セシムルコトハ可能ナリト思フモ副總稅務司トシテ復(職)セシムルコトハ自分トシテハ難カシキ旨話シ居リタルカ「メ」ハ數日前本使旅行中加納正金支店長ヲ訪問シ今週加奈陀經由ニテ歸任ノ途ニ就ク處本使ニ傳言トシテ大要左ノ通り述ヘタル趣ナリ

自分ハ岸本ヲ漢口稅關長ノ如キ重要地ノ「コンミツシヨナー」ニ一先ツ任命シ時期ヲ見テ副總稅務司ニ復シテハ如何ト考ヘ居レリ其外ノ稅關長ニ任命スルコトニハ南京政府ヲ説得スル確信ヲ有スルモ直ニ副總稅務司ニ復セシメ得ル自信ヲ有セス是等ノコトニ付テハ自分カ松平大使ニ「サゼ

スト」シタルコトスラ絶對南京政府ニ漏ラサレサル様願度シ云々

尙右ノ次第ヲ「メーズ」ニ於テ内密本使ヨリ日本(政府)ニ通報方希望シ居リタリ

(欄外記入)

海關ニ對スル我方態度ハ根本的ニ考慮ノ要アリ

589 昭和9年9月13日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

岸本復職問題はメーズの主管事項ゆえ同人帰任後  
意見聴取の上決定したいとの汪兆銘見解について

南京 9月13日前發  
本省 9月13日前着

第九一六號(極秘)

有吉公使ヨリ左ノ通

往電第七三八號ニ關シ

本使十一日來寧今日汪兆銘ニ會見セルカ

一、本使ヨリ岸本休暇歸國ノ經緯ヲ説明シ其ノ休暇期限滿了

ヘキヤ否ヤハ差當リ約束シ難キ處例ヘハ原職復歸ノ外原職ト同等ノ地位又ハ原職ヨリ以上ノ地位ニ轉セシムル方法モアルヘシトテ何トナク「メ」ノ倫敦ニ於ケル話振リ(英發閣下宛電報第四六八號)ト何等聯繫アルニ非サルカノ印象ヲ受ケタルカ本使ハ岸本カ多年過誤無ク忠勤ノ結果今日ノ地位ヲ得タルモノナルコト及原職復歸ニ對スル我方期待ノ次第ヲ重ネテ説明シタルニ

四、汪ハ以上自分ノ言フ所ハ單ニ人事ノ取扱振ニ對スル一般の意見ヲ述ヘタル迄ニテ岸本ノ原職復歸ノ可否ニ付今ヨリ何等意見ヲ定メ居ル次第ニモ非ス從テ御希望ノ點ニ對シテハ充分好意的考慮ヲ加フヘク何レ「メ」ノ歸任ヲ待チ十二分ノ決定ヲ爲スヘシト答ヘタルニ付本使ハ豫メ關係部長等ニモ談合ノ上我方希望ノ通り實現シ得ル様準備ヲ請フ旨申入レ置キタリ

支、北平ヘ轉電セリ

ノ際ハ直ニ「チーフセクレタリー」ノ原地位ニ復セシムル様豫メ主管當局者トモ打合セ準備シ置カレ度キ旨申入レタルニ汪ハ右ノ如キ特殊ナル事情ニテ離任シタルモノナルニ於テハ其ノ歸任ハ素ヨリ差支無カルヘキモ海關行政ハ財政部ノ監督下ニ在ルモ「メーズ」ニ於テ主管シ居リ且其ノ任地ニ付テモ總稅務司署内ノ都合モアルヘキニ付何レ「メ」ノ歸任(既ニ英國出發ノ來電アリシ由)ヲ待チ其ノ意見ヲ徵シタル上決定スヘシト答ヘタリ

三、依テ本使ハ岸本ノ離任カ右ノ如キ特殊ノ事情ニ依ルモノナリシ關係上當時本使ハ「メ」ヨリ個人的ノ相談ヲ受ケタルカ「メ」ハ將來國民政府側ニテ異議無ケレハ其ノ儘原地位ニ復歸セシムヘキ心組ナリト述ヘ居リシ處一方日本政府トシテハ總稅務司ニ次ク第二ノ地位トシテ岸本ノ「チーフセクレタリー」復歸ヲ重要視シ居ル次第ニテ殊ニ岸本ハ前述ノ如ク言ハハ當時日支間ノ險惡ナル空氣ノ犠牲トナリタルモノナレハ之ヲ原狀ニ引戻スコトハ兩國ノ關係ニモ好影響ヲ及ホス次第ナリトテ前職復歸ノ當然ナル次第ヲ強調シタルニ

三、汪ハ海關ノ都合モアルヘキニ付岸本ヲ原職ニ復歸セシム

590 昭和9年9月14日 広田外務大臣より  
在上海石射總領事、在厦門塚本領事、  
在天津田中總領事代理他宛

中国海關内邦人海關吏數の現状を維持するよ

う訓令

亞一機密合第一三四二號

昭和九年九月拾四日

外務大臣 廣田 弘毅

在上海總領事 石射 猪太郎殿

在厦門總領事 塚本 毅殿

在天津總領事代理 田中 莊太郎殿

在廣東總領事代理 服部 恒雄殿

在青島總領事 坂根 準三殿

在蕪湖領事代理 吉竹 貞治殿

在宜昌領事 柴崎 白尾殿

支那海關傭聘邦人職員ニ關スル件

一、支那海關傭聘ノ邦人職員ハ三十五年以前始メテ一名ノ採用ヲ見タルカ爾來海關内ニ於ケル我勢力ノ進展ニ努力ヲ續ケタル結果漸次其ノ數ヲ増加シ一時ハ約二百名ヲ數フ



ルニ至リ獨リ其ノ數ニ止マラス總稅務司ノ次席タル「チーフ、セクレタリー」ノ地位モ邦人ノ占ムル所トナレリ。右ノ如キ海關内ニ於ケル我勢力ノ進展ハ益々助長スヘカリシ處國民政府成立以來支那側カ海關内外國勢力蠶食ノ舉ニ出ツルニ至レルニ加ヘ對日風潮惡化ノ爲我方累次ノ努力ニ拘ラス充分ニ其ノ目的ヲ達セサリシノミナラス場合ニ依リテハ寧ろ衰退ノ傾向サヘアル實情ニアリタリ。更ニ日支事變發生スルニ及ヒ邦人海關吏ハ頗ル困難ナル立場ニ置カレタルカ、次イテ滿洲國ノ成立ヲ見ルヤ彼等ノ内同國稅關ニ轉職スルモノ約九十名ニ上レル結果現在ニ於テハ支那海關ニハ僅ニ八十名餘ヲ殘スノミトナレリ。我方ハ此ノ趨勢ヲ挽回シ人員ノ増加ト地位ノ向上トヲ策シ來レルモ、何分目下ノ日支關係ニテハ急速ニ右目的ヲ達成シ難ク、今後一層ノ努力ヲ期シ居ル次第ナルモ(今秋岸本「チーフ、セクレタリー」ニ復任ノ見込ナルカ(此ノ點貴官限リ極祕含)其ノ上ハ新規ノ計畫ノ下ニ目的ノ達成ヲ計リ度考ナリ)差當リ兎ニ角現狀丈ケニテモ維持スルコト焦眉ノ急ト云フヘシ。

ニ、然ルニ最近在留邦人中ニハ邦人海關職員ニ於テ特別ノ手

心ヲ加ヘ呉ルル様種々ノ要請ヲナス向アリ、其ノ結果此等邦人職員ヲ苦境ニ立タシムルカ如キ事例モ尠ナカラサル由ノ聞込アル處(邦人職員カ右等要請ニ應セサル場合ニハ彼等ヲ非國民ナリトシテ威嚇シ又ハ邦字新聞等ニテ熾ニ攻撃スルカ如キコトモアリト云フ)左ナキタニ不況ニ苦ミ居ル在留邦人トシテハ右ハ一應無理カラヌコトニモアリ又平常時ナラハ邦人職員ニ於テモ相當ノ便宜ヲ計リ得ル場合モアルヘキモ、彼等自身已ニ困難ナル境遇ニ立チ寧ろ現職ノ保持ニ戰々恟々タルカ如キ狀況ニ在ル邦人職員ニ對シ此ノ際無理ナル要請ヲナシ益々其ノ地位ヲ不安ナラシムルカ如キハ大局上嚴ニ之ヲ戒ムルヲ要スヘク、我方トシテ現下ノ急務ハ前記ノ如ク此等邦人職員ヲシテ其ノ地位ヲ維持セシムルコトニ存スル次第ナリ。而シテ今後日支關係ノ好轉ニ伴ヒ海關内邦人職員ノ増員及地位ノ向上ヲ計ル一方此等邦人職員ニ於テ安シテ在留邦人ニ對シ相當ノ便宜ヲ計リ得ルカ如キ事態ヲ漸次招來スヘク努ムルコト最モ策ノ得タルモノト認ム。

三、就テハ敍上ノ次第御含ノ上此ノ際在留邦人ヲシテ此等邦人海關職員ノ立場ヲ十分理解セシメ兩者間ノ融和ヲ計リ

以テ海關職員ノ地位ヲ安固ナラシムル様必要ニ應シ可然指導方御措置相成度此段申進ス。

本信宛先 上海、厦門、天津、廣東、青島、宜昌、蕪湖  
本信寫送付先 支、南京、北平、漢口、福州、芝罘、杭州、

九江、沙市、長沙、汕頭

591 昭和9年9月20日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

海關人事はメーズに一任するとの孔祥熙内話  
について

南京 9月20日後発  
本省 9月20日後着

第九五五號

本官發支宛電報

第九四三號

本官發大臣宛電報第九一六號ニ關シ

件 六 雜  
十九日日本官孔祥熙ト會見ノ際岸本復任期ノ近キ旨輕ク念ヲ押シタル處孔ハ同人ハ珍シク優秀ナル記録ヲ有シ居リ支那政府ニ忠實ナルコト明カナレハ復任セシムルカ或ハ更ニ良

キ地位ナリトモ與ヘタキ意嚮ナルカ海關關係者ノ任命ハ形式上ハ兎モ角實際上一切「メーズ」ニ一任シアレハ同人歸任迄決定ヲ避ケ居ル次第ナリト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ然ラハ岸本「チーフ、セクレタリー」ニ復任ハ勿論ノ儀ナリト思考スト述ヘタルニ孔ハ自分トシテハ異存ナキモ何レ「メ」ノ裁量ニ依リ決定セラルヘシト答ヘ岸本復任ニ異存ナキヤノ印象ヲ受ケタリ  
大臣、北平ヘ轉電セリ

592 昭和9年9月25日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

岸本復職問題は人事行政のみならず政治的見地よりも考慮を要するの我が方見解を関務署長へ申入れについて

上海 9月25日後発  
本省 9月25日後着

第七八〇號(極秘)

南京發閣下宛電報第九一六號及第九四三號ニ關シ(九五五)  
二十四日堀内ヲシテ沈關務署長ニ會談セシメタル結果左ノ

「堀内ヨリ從來我方ト「ローフォード」汪兆銘及孔部長トノ話合ノ次第ヲ説明シ我方ニ於テ岸本ノC、S、復任ヲ頗ル重要視シ居ルコト及汪院長ニ於テモ右我方ノ立場ヲ了解セラレ居リ殊ニ孔部長ハ岸本ノC、S、復任ニ異存無キ旨ヲモ話シ居ラルル模様ナレハ右實現ヲ見ル様盡力方申入レタルニ沈ハ自分ハ岸本ノ復任ニ付テハ貴官ト「ロ」ノ話ヲ「ロ」ヨリ電話セラレタルモ孔部長トハ未タ充分話合ヒ居ラス自分ノ考ハ岸本ノ從來ノ成績ニ見テ其ノ復任ハ當然ナルモ同人ノ地位ニ付テハ税關内人事行政ノ立場ヨリ考量スルコト適當ニシテ從テ必シモC、S、トハ限ラス

例ヘハ北方ニ於ケル密輸防止ノ見地ヨリ天津税關長ノ如キ要職ニ就クコトモ一案ナルヘシト述ヘタルニ付堀内ヨリ右ハ税關ノ人事行政上ヨリハ或ハ適當ナランモ岸本ノ復任ハ其ノ賜暇ヲ餘儀ナクセラレタル特別ノ事情ニ鑑ミ單ナル人事行政以外兩國關係ノ政治的見地ヨリ充分ノ考量ヲ拂フ必要アリトテ我方ノ立場ヲ繰返シ説明シタル處沈ハ其ノ點モ尤ナルカ之ハ全然友人トシテノ話ナルカト

量ヲ與ヘラルルコト必要ナリト述ヘタル處沈ハ自分ノ考モ正當ト考ヘルニ付貴見ノ次第ト併セテ孔部長ニ報告シ其ノ決定ヲ請フヨリ外ナシト述ヘ居タリ

ニ、次テ堀内ノ質問ニ對シ沈ハ「メ」カ英國ニ引返シタルハ支那側ノ命令ニ基クモノニ非ス私用ノ爲ナルカ之カ爲豫定通り歸滬シ難ク賜暇ヲ延期スル外無カルヘキモ其ノ期間等ハ不明ナリト述ヘタルニ付堀内ヨリ「メ」ノ歸滬カ岸本ノ賜暇満期後トナルカ如キ場合ハ岸本復任ノ件ハ何人カ取計フヤト訊ネタルニ沈ハ右ハ必シモ「メ」ノ歸任ヲ待ツ必要無ク自分及「ロ」ニ於テ取計フコトトナルヘシト述ヘ居タリ

南京、北平へ轉電セリ

593

昭和9年9月27日 広田外務大臣より  
在中国有吉公使宛(電報)

孔祥熙を岸本復職問題における中国側交渉相手とするよう訓令

本省 9月27日後5時30分發

前置キシ岸本不在中最最近ニ於テ丁貴堂カC、Sノ職務ヲ充分ニ執行シ來リ居ル事實及C、Sノ地位カ列國人競争ノ的トナリ之カ爲部内ノ規律乃至能率ニ惡影響アル點等ニ鑑ミ此ノ際支那人ヲ以テC、Sトナスヘシトノ說支那人部員ノ間ニ擡頭シ居ル事情モアリ

之ヲ押シテ岸本ヲC、Sニ復任セシムルコトハ同人ノ爲ニモ不利益ナルヤニモ考ヘラルト述ヘタルニ付堀内ヨリ支那人ヲ以テ税關ノ要職ニ就ケンツスル支那側ノ希望ニハ自分モ同情スルニ吝ナラサルモ此ノ際先ツ岸本ヲ原狀ニ回復セシメ日本側ノ税關ニ對スル信用ト同情ヲ博スルコトカ右希望實現ノ捷徑ニシテ假リニ税關側ニ於テ岸本ノ不幸ナル賜暇ヲ利用シ支那人ノ爲ニ其ノ地位ヲ奪フカ如キコトアランカ本問題ニ付テハ税關制度不變更ニ對スル支那政府ノ「コンミットメント」及岸本復任ニ對シ税關當局ノ我方ニ與ヘタル了解ノ次第モアリ日本國民ハ強硬ニ反對スルコト明白ニシテ其ノ結果税關關係乃至兩國關係ニ及ホス惡影響ノ外前記支那側ノ希望ハ却テ長ク實現ヲ阻止セラルルコトトナルヘク

旁本件ニ付テハ前述ノ如キ政治的見地ヨリ充分好意的の考

貴電第七八〇號ニ關シ

一、右貴電一ノ末尾ノ次第ニモ顧ミ南京發貴公使宛第九四三號等ノ經緯ヲ辿リ此ノ際機ヲ逸セス孔部長邊リヘ可然「ブツシュ」スルコト適當ナルヤニ存ス御如才ナキコトト存スルモ念ノ爲

ニ、尙右貴電ニ依レハ沈ニ對スル談話中岸本復任ニ關スル税關ノ了解ニ言及シアル處貴方トシテハ右了解ニ全然言及セサルコトハ支那側說得上遣リ惡キコトト萬々御察シスルモ「メーズ」ハ芳澤乃至有吉公使トノ間ノ極秘私信ノ件カ支那側ニ漏ルルコトヲ極度ニ氣ニシ居ル由ニテ今後此ノ點ニ付支那側カ「メーズ」ニ詰問等ヲナスカ如キコトアラムカ「メ」ハ之ヲ口實トシテ岸本推薦ノ義務ヲ免レムトスルニ至ルヘキ虞多分ニアルニ付本件ハ(本年八月廿八日附往信亞一機密第一〇五號及往電第二三七號參照)特ニ御注意ヲ乞フ

南京、北平へ轉電セリ

594 昭和9年9月29日 在中国有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)

岸本問題は汪兆銘を交渉相手とする方が有効  
の旨意見具申

上海 9月29日後発  
本省 9月29日後着

第七九二號(至急、極秘)

往電第七八〇號及貴電第二五三號ニ關シ

「廿八日夜宴席前堀内沈ト會談本件ニ關スル孔部長ノ意嚮ヲ質シタル處沈ハ廿五日南京ニテ孔部長ニ對シ冒頭往電堀内ト會談ノ次第ヲ報告シタルカ孔ハ直ニ異議ヲ述ヘス岸本ノ爲人ヲ尋ネタルニ付沈ヨリ自分ハ岸本ト深キ親交無キモ役所ノ記録及外支人同僚ノ批評ヲ綜合スルニ同人ハ立派ナ「キヤリヤー」ヲ有シ居リ殊ニ上海事變中ハ時ニ生命ノ危險ヲ冒シ支那人同僚ノ救出日本軍側トノ聯絡ニ努メタル等海關ニ對シ常ニ忠實ナリシ旨ヲ説明シタル處孔ハ自分ハ岸本ヲ善ク知ラサル故先ツ同人ニ面接シ其ノ意見ヲモ聞キ度シトノコトニテ直ニ岸本ニ歸滬方「ロ」ヨリ電報セシメタレハ本件ハ同人歸滬ノ上孔部長

595 昭和9年10月1日 在英国松平大使より  
広田外務大臣宛

岸本復職問題その他中国海關行政一般に關する  
メーズ談話要領の送付について

機密第五五六號 (10月29日接受)

昭和九年十月一日

在英

特命全權大使 松平 恒雄(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

「メーズ」ト加納正金支店長トノ會談ニ關スル件(極秘)

(欄外記入)  
本件ニ關シ曩ニ電報シ置キタル処加納ヨリ本使ニ對スル報告寫茲許送付スルニ付御查收相成度尙在支公使及在滿大使ヘハ貴方ノ御裁量ニ依リ寫御転送相成度此段申進ス

昭和九年九月二十七日

横濱正金銀行

倫敦支店支配人 加納 久朗

在英帝國大使

松平 恒雄閣下

及自分等ト充分話合ノ上決定ノコトトナルヘシト述ヘタルニ付

堀内ヨリ孔部長ハ岸本ヲCSニ復任セシムヘシトノ先日ノ自分ノ意見ニ付如何ニ考ヘラレタルヤト尋ネタルニ沈ハ部長ハ右ニ付何等表示セラレサリキト答ヘ居タル趣ニ付堀内ヨリ日本側トシテハ先日モ話シタル通り孔部長ニ於テ岸本CS復任ニ異存無キモノト考ヘ居ル旨ヲ念ヲ押シ置キタル趣ナリ

三、右ニ據リ本件ニ對スル孔ノ態度ハ南京發閣下宛電報第九一六號等ノ如ク未タ必スシモ明確ナリト思ハレサルニ付此ノ際ハ從來本使汪精衛トノ話合ヲ辿リ政治的見地ヲ理由トシ同人ヲシテ盡力セシムルコト寧ロ有效ト存シ居リ(本廿九日唐ト會談ノ筈又今後ノ發展ニ依リ冒頭貴電ノ如ク本使ニ於テ孔ト接觸スル場合ニハ往電第七八二號當方態度ニ付何分ノ御回示ニ接シ居ル方便宜ナリト存シ居ル次第ナリ右御含置ヲ請フ

南京、北平ハ轉電シ上海ヘ轉報セリ

~~~~~

拜啓 昨夜御話有之候通り小生今朝Sir Frederick Mazeヲ訪問致候全氏談話ノ要領別紙ノ通り御報告申上候 敬具

(一) 今度ハCustomノsmuggling取締用ノmotorboats及

wireless機械買入レノ爲メニ急ニ戻ツテ來タ(察スルニ

支那稅關ノ買物トシテIGト英國製造業者ノ間ニ契約サ

ルヘキモノニテ南京政府ノ借款トハナラヌモノナラン)

(二) 關東州ト芝罘及天津トノ間ノsmugglingカ余リ劇シイ

カラ取締ヲ嚴重ニスルノカ主タル目的ナリ

(三) 一休關東州ハ日本ノ憲法下ニアリ條約上南京稅關ヲ關東

州ニ置クヘキタカ既ニ滿洲國稅關ノ設置ヲ許シテシマツ

タカ大連ニ南京政府ノ海關ヲ復興スル事ハ六ヶ敷カシイ

タロウカ

(右ニ對シ加納ハ「夫レハ私見トシテ絕對ニ六ヶ敷^(ママ)シイト

思フ」ト答フ)

(四) ソウナルト各方面カラ部分ノニ又ハ地方的ニ日支問題

ヲ形付ケテ行クカヨイト思ハレル

例之(1) 鐵道ノ連絡ニ就キ滿支地方官憲間ニ協定ヲシテ円

滿ニ交通ヲ開始スルカ如キ又

(2) 郵政問題ニ就テハ政治問題ヲ離レテ滿支間ニ連絡ヲ採ルカ如キ又

(3) 税關事務ニ就キテハ Customs documents ノ交換ヲ兩國間ニ公式ニ認メルト云フ事ヲ始メ度イ

(5) 天津ヘ關東州カラ日本商品カ smuggling サレル事ニ就キ天津ノ日本商人ヨリモ天津税關ニ幾多ノ Complain アル事ナリ自分トシテハ日本ノ如キ大國カ smuggling ヲ默許スルカ如キハ不名誉タト思フ

(6) 一体支那税關ハ國際的ノモノテアル自分カ英國人タカラトテ英國政府ノ内意ヲ受ケテ仕事ヲスル訳ケテモナシ又特ニ英國ノ利益ヲ計ル訳ケテハナイ

税關ハ支那港灣ノ改善燈台ノ維持等國際的ノ service ヲシテ居ル而シテ日本ハ一番其恩恵ニ浴シテ居ル訳ケタカラ自分ノ立場ヲモ日本カ了解シテ support シテ呉レル可キタト思フ

(7) 自分ハ Sir Francis Aglen ノ如ク支那ヲ牛耳ル (Bully) スル事ハセヌ Sir Robert Hart ノ如ク後シロカラ支那ニ適當ノ Advice ヲ與ヘル方法ヲ採ル

(右ニ對シ加納ハ「支那ハ段々子供カラ大人ニナリ貴下ノ

何時テモ Chief Secretary ニ戻シテ來テモ南京政府ハ異議ハナイ今直ク Chief Secretary ニ戻サネハ日本カ承知セヌト云ヘハ何時迄モ岸本ハ支那税關ニハ帰レヌコト、ナリ問題ハ一層 Complicate シハスマイカ
此点松平大使及有吉公使ノ御再考ヲ願ヒ度イ
(+) 自分ハ國際的官吏トシテ充分 Fair ニ Act シテ居ルノタカ支那ハ非常ナ猜疑心ヲ以テ自分ノ行動ヲ見テ居ルカラ自分カ貴下ニ面會シタリ松平大使ニ御目ニカ、ツタリ乃至此レ丈ケノ傳言ヲ松平大使ニ御願ヒスルコトカ絶對ニ南京政府ニ知レヌ様願ヒ度イ
今支那ノ感情ヲ irritate シタク無イ
(-) 岸本ノ Case ニ就イテハ自分ハ有吉公使ニ對シ「日支間ニ円滿ニ諒解サヘツケハ岸本ノ re-installment ニ就イテ自分ハ賛成スル」
ト云フコトヲ文書ヲ以テ約束シテアル自分ハ日本ノ爲メニモ岸本ノ税關長ノ地位ヲ引受ケルコトヲ切ニ希望スル此レモ日支感情融和ノ一助トナルデアロウ。

以上

Advice ヲ其儘受ケヌタロウ支那人ハ可愛カレハツケ上リ Bully スレハ云フ事ヲ聞クト思フ此レカ支那人ノ氣質ナリ」ト云ヒタルニ對シ Maze ハ「Bully スレハ Aglen ノ様ニ支那ニ背負投ケヲ喰サレル」ト答ヘタリ)

(8) 支那ノ對日感情ハ良クナツテ來タト云フカ滿洲事件後及上海事變後ノ對日感情ノ惡イコトハ此等事件前トハ比較ニナラヌ、日本ハ其点ヲヨク頭ニ入レテ支那ヲ取扱ハヌトイケナイ

(9) 岸本復職ノ件

岸本ヲ Chief Secretary ニ復帰スルコトハ南京政府ハ承知セヌ然シ嘗テ Chief Secretary タリシ Ison 氏 Rossi 氏其他カ Minor Post ノ Commissioner ニナルコトハ決シテ面子ヲ潰ス訳ケテナイ今春漢口税關長ニ自分カ岸本ヲ Recommend シタ時ニ有吉公使カラ外務省ニ問合セタ処「No」ト云フ返事カ來テ實現シナカツタ事ハ返ス

〳〵遺憾テアル
漢口ハ三十何ヶ処ノ税關中四大税關ノ一ツテアリ日本ノ Community モ大イ事故岸本カ漢口税關長ノ地位ヲ Accept シ地方官憲トノ折合モ良イト云フコトニナレハ

(欄外記入)

支滿ヘ寫送付ノコト但シ滿ヘハ岸本ノ件ハ送ラヌコト

596 昭和9年10月2日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

岸本帰任の時期ならびに今後の対策など報告

方訓令

本省 10月2日後2時発

第二六三號(極秘)

貴電第七九二號ニ關シ

「岸本ハ依然病臥中ナルモ既報ノ如ク期限迄ニハ歸滬ノ心組ナル處當方トシテハ此ノ際全人カ孔部長ニ面會スルコトカ本件解決ヲ促進スルコトトモナラハ此ノ上ナキモ貴電第七九六號ニモ顧ミ右面會ノ結果岸本ニ於テ直接孔部長ヨリCS以外ノ地位ヲ押シ付ケラル、危險ナキヲ保セスト思考シ居リ又南京發貴官宛電報第九五九號ニ依レハ孔ハ「メ」ノ歸任遅ル、ナラハ其ノ前ニ岸本復任ノ手續ヲ執ルヘキヤノ考ノ由ナル處右復任カCS再任ナラハ問題ナキモ然ラストセハ「メ」ノ歸任迄岸本ノ休暇ヲ延期

セシメ「メ」ノ歸任後全人ヲモツ、キテ我方ノ目的達成ヲ計ル方可能ヤニ認メラル旁々孔部長ノ内意等更ニ御確メ相成ルト共ニ岸本歸任時期ニ對スル御見込ト共ニ回電相成度

ニ、尙支那側ハ丁貴堂ノ地位ヲ重視シ居ル模様ナル處、貴電第七八〇號及第七九六號、岸本ハ支那人海關員殊ニ丁ヲ敵ニ廻スコトハ本件解決ノミニ止マラス將來ニ於テモ我方ニ不利ナルヘキヲ以テ萬止ムヲ得サル場合ハ岸本トト併シテC、Sタラシムルカ又ハ兩人ヲ副總稅務司トスルカ又ハ岸本ヲ副總稅務司トスルコトモ一案ナルヘシトノ意見ヲ述ヘ居レリ目下ノ處我方ヨリ進シテ此種妥協案ヲ「サジエスト」スルハ尙早ナルヘキモ今後事態ノ發展如何ニ依リテハ考慮ニ値スルモノト認メラル御參考迄南京、北平ニ轉電セリ

597 昭和9年10月4日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

岸本を速かに上海に赴かせ復職につき孔祥熙と話し合いを遂ぐるべき旨意見具申

ヲ取り居ル次第ナレハ今直ニ之カ内意ヲ確ムルコト困難ナリ)
其ノ上「メ」ノ歸任相當引クニ於テハ其レ支那人海關員ノ立場ヲ益々強ムル結果トナル虞モアリ旁矢張岸本ハ速ニ歸滬シ孔部長ト談合ヲ遂クル外IG署内部乃至沈等ト接觸シテ自ラ海關内ノ空氣ヲ探ルコトトシ其ノ模様如何ニ應シ當方ヨリ更ニ支那側ヲ説得スルニ努力スル方然ルヘキヤニ存セラル
尙貴電二ノ點ハ四月二十八日附貴信亞一機密第四八號御申越ノ通「メ」ニ於テ「ローフオード」ノ處分ト關聯シテ考ヘ居ル所岸本ヲCSニ「ロ」ヲ副總稅務司ニシタキ底意ナルコト御承知ノ通)ヲ岸本ニ仄シタルモノト思ハルルノミナラス支那側當局ニ於テハ差當リ此ノ種考ヲ有セサル模様ニモアリ本件妥協案ヲ我方ヨリ「サゼスト」スルハ貴電ノ通り慎重ノ考量ヲ要スルモノト存シ居ル次第ナリ
北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

第八一二號(極秘)
貴電第二六三號ニ關シ

岸本孔部長ニ面談セハ孔ニ於テCS以外ノ地位ヲ押付ケル様説得スヘキハ想像ニ難カラス當方トシテハ之ニ對抗シテCS復任ヲ要請スルノ外無ク然モ此ノ場合支那側ヲシテ我方ノ主張ヲ認メシメ得ル見込薄キコト勿論ニシテ即チ此ノ際岸本ノ歸滬ハ我方ニ充分ノ成算無クシテ問題ノ解決ヲ迫ル結果トナリ其ノ間ニ於ケル同人ノ困難ナル立場ヲモ考量スル時ハ必スシモ機宜ノ措置ト認メ難シト存セラルルモ他方松平大使等ニ對スル「メ」ノ談話ニ鑑ミ同人ノ歸任後之ヲ突附ケテ我方ノ目的達成ヲ計リ得ル望又薄キヤニ存セラルルニ拘ラス此ノ際當方ヨリ岸本ノ賜暇延期ヲ申出ツルコトハ支那側ヲシテ我方カ本件ニ付其ノ立場ノ弱キコトヲ意識シ居ルヤノ感觸ヲ與フル虞アルノミナラス岸本ノ賜暇延期中ハ我方ヨリ支那側ニ對スル本件ノ解決ヲ督促スルモ問題ヲ進捗セシメ得サルモノト存セラレ(孔ニ於テハ岸本ト面談スル以前ニハ本件ニ對スル意見ヲ決定シ兼ストノ立場

598 昭和9年10月9日 広田外務大臣より
在中國有吉公使宛(電報)

岸本を上海に赴かせることは復職実現にとり
危険なため同人へ休暇延長手続取計らい方指示について

本省 10月9日後8時0分発

第二七二號(極秘)
貴電第八一二號ニ關シ

「本件ニ付更ニ慎重審議ヲ加ヘタルカ岸本カ此ノ際直ニ歸任スルコトハC、S以外ノ地位ヲ押付ケラルル危険多キヤニ認メラル、ニ付矢張り同人ノ歸任ヲ暫ク延期セシメ置カハ其ノ間何等カ策ノ施シ様モアルヘシト思考セラレ殊ニ「メ」歸任前ニ岸本ノCS以外就任カ既成事實トナリ居ラハ最早全人ヲ「プレス」シ得サルニ至ルヘシ(冒頭貴電ノ通り或ハ「メ」ニ大ナル期待ヲ懸ケ得ストスルモ尙同人ヲ「プレス」スル建前ハ輕々ニ棄ツヘキニ非ス)將又結局ニ於テ萬一岸本ノC、S復任カ實現セサル場合モ「メ」ノ責ヲ問フテ將來本件以外ノ海關關係問題ニ付我方ノ立場ヲ有利ナラシムル爲利用スル途モアルヘキ處

「メ」ノ歸任前二前記ノ如キ既成事實成立シ居レハ夫レモ困難トナルヘク旁々此際岸本ヲ至急歸任セシメサルコト適當ト認メラル、ニ付岸本ニ對シ十月十五日直前同人ヨリI・G署ニ對シ病氣全快ニ至ラサルコトヲ理由トシテ休暇期限延期(短期間ノ筈)方手續スル様指圖シ置キタリ(岸本ハ尙病氣全快セス即時歸任ハ事實上不可能ナリ)ニ、御承知ノ通り本件ハ岸本一身上ノ問題ニ止ラスシテ我對支政策ノ重要ナル一部ヲナスモノナルニ付貴方ノ困難ハ充分ニ御察シスルモ何トカ支那側說得方此ノ上トモ御努力相成度殊ニ本件ハ排日風潮ノ爲一時離任ヲ餘儀ナクセシメラレタル岸本ノ復任カ出來ルト否トハ國民政府ノ對日態度ニ關スル一ノ「テスト、ケイス」タル意味ニ於テ我方ノ特ニ重大視シ居ル次第ナルコトヲ一層先方ニ徹底セシムルコト肝要ト存ス

三、尙貴電第七九六號ニ依レハ唐有壬ハ孔部長ハ舊地位若ハ右以上ノ地位ニ復スルコトヲ意味シタル旨語レル趣ナルカ(尙南京發貴公使宛電報第九四三號前段參照)海關現制度ニテハ各海關長ノ地位ハC、Sヨリ下位ニアル一方I・G以外ニシテC・S以上ノ地位ナキ譯ナルヲ以テ此

有吉公使ヨリ

貴電第二七二號ニ關シ(岸本復任ノ件)

本使十一日來寧同日汪兆銘ニ會見セルカ先ツ本使ヨリ京阪地方風水害ニ對スル汪ノ見舞及熱帶病理學大會出席者ニ對スル支那側ノ歡待ニ對シ表謝ノ挨拶ヲ述ヘタル後

一、本使ハ岸本ノ件ニ付政府ヨリ訓電ニ接シタル次第ヲ前提シ岸本ハ排日風潮ノ犠牲トシテ一時離任ヲ餘儀ナクセシメラレタルモノナルヲ以テ兩國關係好轉ノ今日其ノ復任ヲ阻止スル何等ノ理由モナキコト其ノ復任カ出來ルト否トハ國民政府ノ對日態度ニ關スル本使ノ「テスト、ケイス」トシテ我方ノ特ニ重大視シ居ル次第ヲ述ヘ汪ノ態度ヲ質シタルニ

汪ハ本件ハ前回貴公使ト會見(南京發閣下宛電報第九一六號)後取調ヘタル處岸本ノ休暇ハ何等政府ヨリノ指圖ニ出テタルモノニ非ス「メイズ」ト岸本トノ相談ニ依リ行ハレタルモノナル處其ノ休暇ハ一般休暇規定ニ依ルモノナルヲ以テ休暇明ケト同時ニ歸來シ復(任)スル事ハ規定上當然ニシテ何等異議無シ唯岸本將來ノ地位ニ付テハ海關内ノ人事行政トシテ直屬長官タル「メ」(十一月半バ

ノ點ヲ捉ヘテ我方目的ノ達成ニ進ムコトモ一案ト思考ス四、尤モ此ノ際支那側ヲ餘リ急追シ其ノ結果「メ」歸任前ニ我方ニ不利ナル既成事實ヲ作ルコトトナルカ如キハ面白カラサルヲ以テ御如オナキコトト存スルモ右御含置相成度場合ニヨリテハ差當リ「メ」サヘ反對セサルニ於テハ國民政府トシテハ岸本ノC・S復任ニ反對ナシ』トノ孔部長ノ當初ノ言質(南京發貴公使宛電報第九四三號)ヲ更ニ明確ニ確認セシメ置キ「メ」歸任後全人ヲ「プレス」スルコトモ亦一策ト存ス

南京、北平ニ轉電セリ

599 昭和9年10月12日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

岸本復職問題を政治的に重視するとの我が方意向に對し同問題には海關規定と日中間友誼の観点から対応するとの汪兆銘回答について

南京 10月12日後発
本省 10月12日後着

第九九九號(極秘)

頃歸任スル由ニ一任シアルヲ以テ今後モ他ニ轉任サセス等ノ保障ヲ爲ス事ハ自分トシテハ差控ユルノ外ナシト答ヘタリ

二、依テ本使ハ然ラハ民國政府トシテハ岸本ノ歸任ハ何時ニテモ差支ヘナク又歸任ト同時ニCSノ現職ニ復スル事ハ當然ナリ唯將來轉任ノ必要有無等ハ直屬長官タル「メ」ノ決定スヘキ事項ニシテ「メ」ニ一任シアリトノ意嚮ナリヤ又右ハ孔財政部長モ同意見ナリヤト念ヲ押シタルニ汪ハ其ノ通りニテ孔モ亦同意見ナリト答ヘタルカ

三、(目下病氣ニテ豫定ヨリ若干出發延期スヘキ旨告ケ置ケリ)ノ將來ノ點ニ對シテモ其ノ地位ヲ保持スルコトニ付政治的ニ重大視シ居ル次第ニテ事實問題トシテモ日本人カCSノ地位ニ在ルコトハ兩國ノ密接ナル貿易關係ニ基ク稅關事項調節上双方ニ有利ニシテ且兩國ノ關係ニ安心ト好影響トヲ與フル次第ナレハ此ノ點ニ付篤ト考慮ヲ求ムル次第ナリト(說)キ我方ノ態度ヲ強調シタルニ汪ハ貴意ノ次第ハ充分了解セリ此ノ問題ハ規定ト友誼トノ二點ヨリ觀察スヘク規定ニ依レハ將來岸本ノ轉任如何ハ事務

ノ都合ニ依リ決定スヘキモノナルカ貴公使ノ唯今ノ御話
ハ兩國友誼上ノ問題ナル處自分ハ將來トモ此ノ點ニ注意
シ充分善意ノ考慮ヲ加フヘシト答ヘタリ
支、北平へ轉電セリ

600 昭和9年10月26日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛

岸本の休暇延期決定および同人が天津へ転任
されとの内部情報について

亞一機密第一三二號

昭和九年十月二十六日

外務大臣 廣田 弘毅

在中華民國

特命全權公使 有吉 明殿

岸本復任問題ニ關スル件

岸本休暇延期方ニ付テハ曩ニ電報ヲ以テ申進置タルカ同人
ハ十月十五日I・G署宛「病氣全快迄病氣休暇ヲ與ラレ度」
旨申出タルニ對シ十六日「ローフォード」ノ名ヲ以テ「休
暇延期方許可(無給)アリタルニ付正式ニ出願書提出アリ

在英

特命全權大使 松平 恒雄(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

加納正金支店長ト「メーズ」トノ會談ニ關スル件

當地加納正金支店長ト「メーズ」トノ間ニ岸本復任問題ニ
關シ十月三十一日會談ヲ爲シタル次第ニ付テハ曩ニ要領電
報シ置キタル處本件ニ關スル加納ノ本使ニ對スル報告寫別
添送附スルニ付御査閱相成度シ

(別 添)

昭和九年十月三十一日

横濱正金銀行倫敦支店支配人

加納 久朗

在英 帝國大使

松平 恒雄閣下

件 拜啓一昨夜ノ御話モ有之今朝Sir Frederick Mazeニ會見
致候同氏談話要領別紙ノ通りニ御座候御參考迄ニ供貴覽候
六 雜 敬具

度」旨回答アリ依テ岸本ハ十六日附書翰ヲ以テ總稅務司代
理ニ對シ十一月末日迄休暇延期方出願書ヲ提出シ置キタル
趣ナリ

尙總稅務司署渡邊六藏ハ十月十九日附書翰ヲ以テ岸本ニ對
シ丁貴堂ハ絕對極祕トシテ渡邊ニ對シ岸本ノ任地ハ天津ニ
確定シ居ル由ヲ洩シタル旨申越シタル趣ニテ岸本ハ係官ニ
對シ右書翰カ十月十九日附ナル點ヨリ察シ汪兆銘カ有吉公
使ニ與ヘタル言質(十月十一日)ハ未タ沈ヘハ傳ハリ居ラサ
ルヤニ思考スル旨申述ヘ居タル趣ナリ(渡邊ノ立場モアリ
全人ノ名ハ絕對ニ「クオート」セサル様特ニ御留意相成度
念ノ爲)此段御參考迄申進ス

本信寫送付先 北平 南京

601 昭和9年11月2日 在英国松平大使より
広田外務大臣宛

岸本復職問題を政治問題視する日本側見解に對
し遺憾の意を表明したメーズ見解送付について

機密第六一五號

(11月26日接受)

昭和九年十一月二日

Sir Frederick Mazeト會見ノ件

時 一九三四年十月三十一日

場所 Hotel Mayfairニ於テ

Maze氏ノ談

一、自分ノ用事モ略ホ形付キタルニ付來週ニハ出發シタイト
思テ居ル遅クトモ本年未迄ニハ上海ニ歸任ノ豫定ナリ
ニ、岸本ノ件

最近 Lawford ヲリ來電アリ

A、岸本ハ sick leaveヲ申出タリ

B、日本政府ヨリ南京政府ニ對シ岸本ヲ漢口稅關長ニ任
命スルコトハ不贊成テアル天津ニ任命セヨト云ツテ來
タ由

C、日本政府ハ本件ヲ political questionナリト云ツテ來
タ由

右ニ對シ自分ノ考ヘハ

(A)、岸本ハ leaveノ期間滿了ニ際シ自分カ最初 recom-
mendセシ如ク漢口ヲ一旦 acceptシテ置イテ吳レタ
ナラ一年カ一年半以内ニ自分ハ chanceヲ見テ quiet-
lyニ Chief Secretaryニ戻ス可カリシント思フ

sick leave ニハ何カ日本政府ノ懲罰テモアルノテハナイカト思フ

(B)、天津任命ハ日本政府ノ希望ノ様テアルカ夫ウナルト天津税關長ヲ漢口ニヤリ其後釜ニ岸本ヲ任命スルコトトナル目下空イテ居ル漢口ニ岸本ヲヤルヨリハ面倒タ然シ南京政府カ天津任命ヲ異議ナシトノ電報ヲ自分ニ吳レレハ自分ハ承諾スル積リテアル

但シ岸本ノ sick leave ノコトハ其前ニウマク取消シテ置カヌト工合カ悪イ

(C)、日本カ政治問題ナリト云ツタコトハ甚タ遺憾テアル元々 Customs Administration ハ政治問題外交問題ニmingle セサル公平ナル國際機關タ自分モ其積リテ仕事ヲ自分ハ餘リニ公平ヲハケ間敷ク云フ爲メニ英國人ノ税關吏カ特ニ英國商人ニ嚴ニ過クルト云フノテ攻撃ヲ受ケテ居ル様ナ譯テアル

岸本ノ事件ニ就テモ自分ハ出來ル丈ケ公平無私ニ取扱テ居ル積リナルモ之レカ Customs Administration ノ仕事ヲ離レテ東京南京間ノ外交工作ノ中ニ捲キ込マレルコトハ困ル

ニハ Reine スル時ガ來ル其後繼者ノ日本人税關吏ニヨイ人カ無イテハナイカ夫シナ事モ日本トシテ考ヘテ置イテヨカロウ自分ハ正直ノ處岸本ノ他ニヨイ Chief Secretary トナリ又總稅務司トナルヘキ人間ハ福本以外ニハ無イト思ツタ其福本カ滿洲國ニ行ツテ了ツタノハ残念タ六、自分ハ何ントカシテ關東州ノ税關問題丈ケハ日支間ニ圓滿ニ話ヲ付ケル途ヲ付ケテ貰イ度イ夫ウスルト北支ノSmuggle 問題モ無クナリ北支一帯ノ日本ノ商社及銀行モ利益スルト思フ Smuggle カ得スルノハ不正ナ支那人丈テハナイカ然モ關東州カ見テ見ヌ振リラスルノハ日本ノ國際信用ノ爲メカラ云テモ惡イテハナイカ關東州ノ租借ノ問題及大連海關問題ハ日支間ノ條約テ決マツテ居ルコトテ日滿ノ問題テハナイト思フ

日支間ノ正常圓滿關係復歸ノ上カラ見テモ大連海關問題ハ再考慮ノ餘地カアロウ

七、自分ハ南京政府ニ對シ

「日本ニ對シテ戰爭スル覺悟ナキ以上滿洲國問題ヲ出スナ滿洲國ハ力ヲ以テ日本カ Back シテ居ル以上問題ニシテモ無駄タ然シ郵政鐵道税關書類ノ交換ノ如キ滿支間ノ

三、自分ハ支那出發ニ際シ有吉公使トヨク話シテアル即チ

「岸本ノコトハキツト時期ヲ見テ Chief Secretary ニ復歸スルト云フコトヲ約束シタ(且 confidential ニ有吉ニ話タ事ハ)有吉カ何カ他ノ用事テ蔣介石ヲ訪ネタ時ニ「岸本ノ Chief Secretary 復歸ノ如キ minor matter ハ早く形付ケテ了フ」ト蔣ニ話シ蔣ニ承諾セシムルカ一番ヨイト

故ニ蔣介石カ岸本ノ Chief Secretary 復歸ニ贊同シ南京政府ヨリ自分ニ對シ其旨ヲ電報シテ吳レレハ自分ハ直ニ贊成スル考ナリ

四、自分ハ日支間カ早く正常ノ狀態ニ復歸スルコトヲ希ツテ居ル日本ノ外交ハ實ニ unwise, undiplomatic タ最初カラ自分ノ suggestion ニ從ヒ岸本カ休暇滿了ト共ニ靜カニ漢口税關長ニナツテ居ツタナラ今頃ハ靜カニ Chief Secretary ニナツテ居ツタカモ知レヌ、事ハモツト smoothly ニ運ンタテアロウ

五、之ハ餘談タ「將來ノコトハ將來ニ take care サセロ」ト云ヘハ夫レ迄タカ一體日本ハ岸本ノ後釜ヲ如何ウスル氣タ今度ハ岸本カ一端復歸スルトスルカ岸本タツテ數年間

technic 問題ハ形付ケテ行ク方カ利益テアル可成ク早く解決スル方カヨイ」ト勸メテ居ル同時ニ自分ハ日本カ支那ニ對スルヤリ方モ滿洲國ノ建設ノ如キ大問題ニ觸レヌ以上租借地問題ヤ大連海關問題モ日支條約ノ正文ニ基イテ漸歩シタナラ日支間ノ關係ハ好轉スルト思フ

以上

加納ノ得タル印象ハ岸本事件ニ關シ

「Maze ハ自分ハ Initiative ハトラヌ何事モ南京次第ナリ」ト云フ様ニ見エタリ

以上

(欄外記入)

「メーズ」不都合ナリ

602

昭和9年11月10日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

岸本復職を容認する汪兆銘発言を言質として
メーズと交渉しその不可なる際には国民政府
側と直接交渉方訓令

本省 11月10日後4時20分發

第二九六號(極秘、至急)

往電第二九五號申進ノ通り「メ」ノ歸任期不確定ナル一方岸本ノ休暇モ之以上遷延ノ理由ニ乏シカルヘク旁々本件交渉ハ此儘放置シ難キモノアルヲ以テ當方トシテハ

(イ)在英大使ニ訓令シ貴電第九九五號汪兆銘ノ言質ヲ楯ニ

「メ」ニ對シ本件ニ關シテハ既ニ支那側ニテ「メ」ノ同意アラハ反對セサルヘキ旨言明シ居レルニ付此際「ロー

フォード」ニ對シ岸本ヲC、Sニ復任方手續ヲ取ル様「メ」

ヨリ電命方要求セシメ「メ」カ其實行スルニ於テハ貴

方ヨリ「ロ」ニ對シ右手續ヲ督促シ且支那側ニ對シ「ロ」

ノ申請ヲ許可スル様交渉スルコト

(ロ)萬一「メ」カ右我方ノ要求ヲ容レサルカ如キ不信ノ態度

ヲ示ス場合ハ「メ」ニ對スル交渉ヲ打切りトシ岸本ヲシ

テ休暇明ケト同時ニ歸滬ノ上孔部長ト面會(貴電第七九

二號)セシムルト共ニ貴方ヨリ支那側ニ嚴重交渉シテ本

件實現ヲ期スルコト

以上二案ニヨリ進ミ度キ考ナルカ貴方ニ於テ右方針ニ對シ

御異存ナキヤ至急同電アリ度岸本ハ十二日轉地先ヨリ歸京

スルニ付全人トハ其ノ上ニテ相談ノ筈

南京、北平ニ轉電セリ

603 昭和9年11月14日

広田外務大臣より
在英國松平大使宛(電報)

汪兆銘發言を言質に岸本復職実現につきロー

フォード総稅務司代理へ電命あるようメーズ

に申入れ方訓令

本省 11月14日後5時發

第三一八號(至急、極秘)

往電第三〇四號ニ關シ

「右往電ノ通支那側ノ言質ヲ得タルニ依リ「メーズ」ノ歸

任ヲ俟チ同人ノ我方ニ對スル予テノ約束ヲ盾トシテ「メ」

ヨリ財政部長ニ對シ岸本復任方申請セシメ度當方ノ考ナ

リシ處(規定上I、Gヨリ申請シ財政部長之ヲ許可スルコ

トトナリ居ル由)貴電第五二二號ニ依レハ「メーズ」ノ歸

任期ハ本年末ノ由ナル一方岸本ノ休暇ハ十一月末ヲ以テ

滿了スヘキニ付(十月十五日ノ期限ヲ十一月末ニ延期シ

居レリ)此際便々トシテ「メ」ノ歸任ヲ待ツコトヲ許ササ

ル次第ナリ

ニ就テハ軍縮問題等ニテ御多忙ノコトハ御察シスルモ以上

御含ノ上「メ」ニ對シ「有吉公使ニ於テ支那側ヨリ岸本

ノ復任ニ異議ナキ旨ノ言明ヲ得タルヲ以テ「メ」ニ於テ

モ從來ノ約束通り取計ハレ度キ處岸本ノ休暇期限切迫シ

居ルニ付至急財政部ニ對シ必要ノ手續ヲ執ル様I、G代

理「ローフォード」ニ電命アリ度」旨要求セラレ結果同

電アリ度

ニ尙「メ」ニ於テ我方要求通取計ヒ吳ルレハ此ノ上ナキモ

「メ」ハ何トカ口實ヲ設ケテ右電命方ヲ回避セムト努ム

ヘキヤニ豫想セラルル處其ノ場合我方トシテハ「メ」ト

議論等ヲ上下シ時日ヲ遷延スルコトヲ避ケ唯タ後日ノ爲

「メ」カ前約ヲ履行セサリシコトヲ明確(我方ハ此ノ點ニ

特ニ重キヲ置ク)ニシ置キ度次第ナルニ付而シテ此ノ場

合我方ハ「メ」トノ交渉ヲ打切り至急支那側トノ交渉ヲ

再開シ度考ナリ)成ル可ク今週中ニ右同電接到スル様御

配慮相成度

支、北平、南京へ轉電セリ

604 昭和9年11月14日

在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

汪兆銘の發言を言質に岸本の復職実現方を唐

有壬へ強硬申入れについて

南京 11月14日後發

本省 11月14日後着

第二一〇八五號(極秘)

十四日他用ヲ以テ唐有壬ト會見ノ際唐^(イ)二岸本ハ何時頃歸滬

セラルヘキヤト質問セルヲ以テ此ノ機會ニ本官ヨリ病氣モ

殆ト全快セル由ナレハ十一月末日休暇明ケニハ歸任ノ上十

二月一日ヨリCSニ復任シ得ヘク既ニ支那側ニ於テモ御手

配濟ノコトト存スト申入レタル處唐ハ先日公使御來寧ノ際

汪院長ハ其處迄明確ニハ御話シ申上ケ居ラスト記憶スト逃

ケタルヲ以テ本官ヨリ往電第九九九號汪ヨリ公使ニ對シ岸

本ヲ當然CSニ復任セシムヘキ旨言明セル點ヲ指摘セル處

唐ハ右會見ニハ自分モ立會ヒタルカ汪院長ヨリハ原則上當

然復任スヘキモノナルモ事實上右ノ如クナルヤ否ヤHIG

ノ決定ニ待タサルヘカラストノ意味合ニテ御返事申上ケタ

ル次第ナリト答ヘタルヲ以テ本官ヨリ右ハ公使ノ面目ヲ全

然顧慮セサル重大食言ナルノミナラス斯テハ支那側ハ日支關係好轉ヲ念トセストノ非難ヲ受クルモ辯解ノ辭無カルヘキニ付同人復任方速ニ手配相成度シト強硬申入レタル處唐ハ困却ノ態ニテ今一應汪院長及十五日歸寧ノ筈ナル孔部長トモ相談ノ上何分ノ御返事ヲ申上クヘシト答ヘ居タリ(北平發貴大臣宛電報第四一三號ハ接到セルモ未解讀)支、北平ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

605 昭和9年11月16日

在英國松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

岸本復職承認の意向をローフォードに電送する旨メーズ承諾について

ロンドン 11月16日後発
本 省 11月17日前着

第五二八號(極秘)

貴電第三二〇號ニ關シ(岸本復任ノ件)

十一月十六日「メーズ」ニ會見シ支那側ニ於テハ岸本ヲ「セクレタリー」トシテノ原地位ニ復歸スルコトニ異存無キ由

ル關係モ極メテ「デリケート」ナルニ付支那政府側ヨリ岸本復任ノ意嚮ヲ自分ニ通達シ來ルニ於テハ勿論之ニ同意スヘキモ自分ヨリ進シテ措置ヲ執ルコトハ致シ兼ヌル次第ナリト述ヘタルカ「メ」ハ最後ニ幾分折レタル形ニテ然ラハ自分ハ「ローフォード」ニ對シ日本大使來訪南京政府ニ於テハ岸本ヲ「チーフセクレタリー」トシテノ現地位ニ復歸セシムルコトニ異存無キ旨申越サレタル處右事實ナルニ於テハ自分ニ於テハ何等異存無シトノ電報ヲ直ニ發スヘキ旨ヲ語り尙自分ノ現在ノ立場ニ於テハ之以上ノ事ハ爲シ得サル旨ヲ述ヘタリ尙「メ」ハ芳澤氏及有吉公使ニ對シ自分ノ與ヘタル約束ハ全然秘密ニ之ヲ爲シタルモノナルニ付何等カノ場合ニ支那側其ノ他ニ右ヲ「リファア」セララルコトハ甚タ困ル旨ヲ繰返シ居リタリ

606 昭和9年11月27日

在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

岸本復職を承認する国民政府意向を確答するよう唐有壬に対し再度申入れについて

ノAssuranceヲ得タルニ付財政部長ニ對シ必要ノ手續ヲ執ル様至急「メ」ヨリ「ローフォード」ニ電命アリタキ旨政府ノ訓令トシテ申入レタル處「メ」ハ自分ハ支那側ヨリ何等右ノ如キ情報ヲ得居ラス元來本件ニ關シテハ有吉公使ニモ秘密ニ御話ヲナシ置キタル通り日本側ニ於テハ日支關係カ「ノーマル」ニ復シツツアリト言ハルルモ自分ノ觀ル所ニ依レハ上海砲撃ノ結果支那人ノ日本ニ對スル怨恨ハ決シテ消滅シ居ラス故ニ岸本氏ヲ含ム總テノ日本人海關關係者ヲ一先各海港ニ復歸セシメ徐々ニ支那人ノ感情ヲ融和セシムルコト日本ノ爲ニモ必要ナリト信シ岸本ニ付テハ結局原地位ニ復歸スルモ先ツ徐々ニ行フ方カ順當ナリト思考スル旨並ニ現ニ岸本ヨリ先任者ヲ他ニ移スコトノ困難ナル旨ヲ繰返セルニ付本使ハ從來「メ」カ芳澤及有吉兩公使ニ與ヘタル約束ヲ指摘シ尙支那ノ規定ニ依レハ總稅務司ヨリ財政部長ニ申出シテ許可ヲ得ルコトナリ居ルニ付既ニ支那政府側ニテ異存無キ以上右様措置アリ度キ旨重ネテ說キタル處

「メ」ハ右規定ハ常態ノ時ノコトニテ日支間ノ現状ハ前陳ノ通り決シテ常態ナリト言ヒ難ク又自分ノ支那政府ニ對ス

第一一三四號(極秘)

往電第一〇八五號ニ關シ

南京 11月27日後発
本 省 11月27日後着

昨日歸寧セル唐有壬ト本二十七日會見ノ上同答ヲ督促セル處歸寧早々ニテ孔部長トモ相談シ居ラサルニ付今少シク待タレタシト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ前回貴官ニ申入レテヨリ既ニ二週間ヲ經過セル一方岸本歸任ハ目前ニ迫リ居ルニ非スヤ之レ以上ノ猶豫ヲ求ムルハ了解シ難シト述ヘ往電第九九九號汪兆銘ノ公使ニ對スル言明ヲ指摘セル處唐ハ右ハ原則上ノ話ニテ事實上ハ「メ」ノ決定ニ依存スル旨繰リ返シタルニ付本官ヨリ冒頭往電ノ如ク應酬セル上支那側ニ異存無ケレハ「メ」ニ於テ異存ハ申立ツヘキ筋合ニ非ス又申出テ居ラスト確信シ得ル根據アリ(在英大使發貴大臣宛電報第五二八號ニハ觸レス)率直ニ言フニ支那側モ「メ」モ一方カ異存ナケレハトテ逃ケテ張リ居ルヤニ觀察セラルル處日本政府トシテハ何時迄モ御待チスル譯ニハ行カスト強硬申聞ケタル處唐ハ困却ノ面持ニテ「メ」ノ意嚮等ニ付孔部長ニ確メノ要モ有リ何レ御返事申上クヘシトノミ答ヘタル

ニ付本官ヨリ明廿八日中ニ復任承知ノ旨確答アリ度シト要求セルニ唐ハ確定次第當方ヨリ通知致スヘシト餘裕ヲ作り居タルヲ以テ岸本復任迄餘日無キ旨重ネテ念ヲ押シ置キタリ

ニ右會談並ニ本件從來ノ經緯ヨリ徴スルニ支那側ハ窮地ニ陥リ居ルヲ悟リ一旦岸本ヲ歸滬セシメタル上總稅務司署ニ於ケル執務ヲ困難ナラシメ結局天津邊ニ轉任方ノ因果ヲ含メテ本件ヲ有耶無耶裡ニ解決セントスル肚ナラスヤトモ觀測セラレ

支、北平へ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリタシ

607 昭和9年12月7日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

メーズが岸本の天津転任を決定したとの唐有壬内話について

南京 12月7日後発
本省 12月7日後着

第一一七九號(極秘)

支、北平へ轉電セリ

608 昭和9年12月8日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

岸本の天津転任を発令しようとする国民政府の不信嚴重追求方訓令

本省 12月8日後1時発

第三一〇號

岸本天津任命ノ件ハ既ニ公文ヲ以テ發令アリタル趣確實ナル内報アリ復任問題カ懸案ナルニ拘ラス支那側カ此舉ニ出テタルハ以テノ外ニテ折角御交渉中ノコトト存スルモ此際先方ノ不信ヲ嚴重追求シ以テ本件交渉ヲ我方ニ有利ニ導クコト得策ト認メラルルニ付爲念

南京ニ轉電セリ

609 昭和9年12月12日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

岸本天津転任措置の正当性につき関務署長説明について

⁽¹⁾ 本官發公使宛電報第一一五三號ニ關シ

七日日本官ト會見セル唐有壬ハ過去二日ニ亘リ汪院長及孔部長ト相談セルカ支那側ハ元來岸本復任ニハ異存無カリシモ海關ノ獨立性ニ鑑ミ孔ヨリ「メーズ」ニ對シ一任スヘキ旨電報セルニ「メ」ヨリ松平大使ヨリモ復任方申入アリタルモ自分ハ岸本ヲ天津ニ轉任セシムルニ決シ既ニ本人ヨリノ承諾ヲ得居レリト返電アリタル旨述ヘタルヲ以テ本官ヨリ右ハ事實ナリヤト更ニ念ヲ押シテ確メタル上然ラハ「メ」ハ日支關係等ニ藉口シツツ一昨年岸本賜暇歸國ノ際本官トノ間ニ爲セル約束(公使トノ交換公文ニ付テハ觸レス)及同人カ松平大使ニ對シテ爲セル言明等ヲ一片ノ反古ト化シ我方ヲ欺瞞セルモノト言フヘク岸本ノ承認云々モ不屈ノ虚言ナリ

右ハ「メーズ」個人ノ問題タルニ止マラス支那官吏タル總稅務司ノ此ノ種行爲ヲ放置スルハ汪院長以下御苦心ノ所謂對日親和政策カ蠶蝕セラルルヲ坐視スルニ等シカラスヤト述ヘ日本政府カ殊ニ本件ヲ重視シ居ル所以ヲ再應力說セル處唐ハ更ニ本日汪孔トモ相談スヘキニ付本日貴官トノ會見ハ政府ニ御報告無キ様御願シタシト述ヘ居タリ

南京 12月12日後発
本省 12月12日後着

第一二〇三號

往電第一一九三號ニ關シ

十一日沈關務署長ト會見ノ上岸本轉任カ我方ニ與ヘタル不快ヲ率直ニ申述ヘタル處沈ハ逐一經緯ヲ御話スヘシト豫テ堀内書記官ニモ御話セル通り丁貴堂自身有能ナル人物ナルノミナラス同人ヲCSニ据エ支那人吏員ニ昇進ノ途ヲ開ケル爲全海關ニ鮮カラサル好影響ヲ及ホセリ(支發貴大臣宛電報第七八〇號參照)依テ自分ヨリ北方ニ於ケル日本ト海關トノ複雑ナル關係ニ顧ミ岸本ノ天津行ヲ發議シ「ロウフオウド」ト正規ノ手續ヲ經テ決定セル次第ナリ一稅務司ハ賜暇ヲ終ヘ必シモ原地位ニ復歸スルモノニハ非サルヲ以テ海關今日ノ措置ハ何等不都合無シ右ニ關シテハ上司ヨリ何等註文ヲ聞キタルコト無ク又聞クヘキ道理モ無シ汪院長等ノ海關内部ノ事情ニ關スル根本的無知識ヨリ面白カラサル結果ヲ惹起セルニ過キスト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ海關内部ノ都合ハ兎モ角日支關係ノ大局ヲ考慮セス不意打的ニ岸本轉任ヲ決定セル遣口ニ付日本政府ハ大ナル不快ヲ感シ

居リ本件圓滿取纏ノ責任ハ全然支那ニ在ル所以ヲ強調セル處沈ハ行違ヲ生セルハ成ル程遺憾ニテ上司ハ何トカシテ申譯ヲ爲スヘキ立場ニアルコト納得行キタリト答ヘタルニ付本官ヨリ然ラハ我方ヲ満足セシムヘキ方法ヲ具申アリタク實際問題トシテ如何ナル案ヲ有スル次第ナリヤト突込ミタル處上司ニ相談ハスヘキモ如何ナル方法ニ依ルヘキヤハ話合ノ上ナラスハ見當ツカスト答ヘタリ

支ヘ轉電セリ

610 昭和9年12月15日

在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

メーズおよびローフォードの採った岸本天津
転任措置につき在中國英国公使へ遺憾の意申
入れについて

上海 12月15日後発
本省 12月15日後着

第九三一號

岸本復⁽¹⁾(任)問題ニ關シ「メーズ」歸任前豫メ我方ノ意嚮ヲ英國側ニ通シ置クコト適當ト認メ十三日須磨英國公使往訪

ノ節本件ニ言及シ我方カ岸本ノ天津任命ヲ甚タ不快ニ感シ居ル旨ヲ述ヘ「メーズ」「ローフォード」カ共ニ英國人タル關係モアリ本件海關ニ關スル日英間從來ノ協調關係ニ顧ミ極メテ遺憾ナリトテ我方ノ意嚮ヲ率直ニ傳ヘシメタル處同公使ハ實ハ二日前北平ヨリ岸本天津任命ノ情報ヲ入手シ「ローフォード」ニ實情ヲ確カメント思ヒ居タル矢先ナリト答ヘタルニ付須磨ヨリ大体南京發閣下宛電報第一二一〇號「フレーザ」談話ト同趣旨ヲ述ヘタルニ同公使ハ貴方ノ御趣旨ハ了解シタルニ付早速「ローフォード」ヲ招致シ内情ヲ確カメ

⁽²⁾明日再會致度シト答ヘタリ依テ十四日須磨再ヒ同公使ヲ往訪シタル處同公使ハ「ローフォード」ニ話シ見タルカ「ロ」ハ「メーズ」カ松平大使ト會談ノ結果ヲ電報越シタルヤ否ヤノ點ハ明答ヲ避ケタルモ岸本ノ天津任命ハ孔財政部長ノ名ヲ以テ三日前正式ニ發令アリタルハ事實ニシテ右ハ孔部長カ日本側ノ意嚮ヲ無視シテ強行セル形トナリ居ルカ「メーズ」ハ歸國前丁貴堂ヲCS代理ニ任命シ二箇月前更ニ之ヲ「コンファーム」シ來レルモ丁ノCS代理タル地位ハ依然變リ無キ次第ナレハ尙交渉ノ餘地アリト思ハルルニ

付「メーズ」歸國後日本側ヨリ更ニ申入レラルルコト然ルヘシト述ヘタル旨ヲ内話シ尙「メーズ」歸任ノ上ハ自分(公使)ヨリモ然ルヘク申聞クヘシト語レル趣ナリ

北平、南京へ轉電セリ

611 昭和9年12月20日

広田外務大臣より
在中國有吉公使宛(電報)

総稅務司署より岸本へ天津轉任方正式通告に
ついて

本省 12月20日後6時発

第三一四號

岸本休暇延長出願ニ對シ總稅務司署ヨリ本月十五日附書翰ヲ以テ右許可アリタル旨並ニ岸本ハ天津稅關長ニ任命セラレタル旨正式ニ通告越タル趣ナリ委細郵報

南京ニ轉電セリ

612 昭和9年12月28日

在南京田中總領事代理より
広田外務大臣宛(電報)

汪兆銘よりの岸本の天津転任は榮転との海関

側見解説明および同人の原職復帰を一時的と
する代替案を唐有壬提示について

南京 12月28日後発
本省 12月28日後着

第一二六九號

有吉公使ヨリ

往電第九四二號ニ關シ

二十七日日本使來寧汪院長ト長時間會談セルカ岸本問題ニ關スル分左ノ通

一先ツ本使ヨリ本問題ニ付テハ曩ニ唐次長ニ於テ何トカ辨法ヲ考究スヘシトノ御挨拶アリタルカ其ノ後如何ニ進展シ居ルヤト尋ネタルニ汪部長ヨリ岸本ノ復任ニ付テハ曩ニ自分ヨリ貴公使ニ對シ同人ヲ元ノ地位ヘ復任方取計フヘシト御約束シタルカ其ノ後突然海關ニ於テ同人ノ天津稅務司轉任ヲ發表シタル自分モ意外ニ感シタルヲ以テ直ニ財政部ヲ通シ其ノ理由ヲ訊シタル處海關ヨリハ

(一)岸本ノ稅務司轉任ハ決シテ左遷ニ非ス多數ノ前例アルノミナラス(CSヨリ稅關長ニ轉任セル多數ノ例ヲ舉ケタリ)現ニ岸本自身モ一九二四年ヨリ一九二九年迄

居リタルCSノ地位ヨリ大連税關長ニ轉任シタルコトアリ

(二)⁽²⁾ 岸本ハ華北ノ各種狀勢特ニ長城線ニ多數ノ天津税關ノ分館ヲ設ケタル關係等ニ鑑ミ特ニ抽シテラレテ天津ニ轉任ヲ見タルモノナルヲ以テ同人トシテハ寧口榮轉ナリ

(三) 別ニ罷免シタル次第ニ非サレハ海關「サーピス」ニ復任スヘシトノ口約ニ悖ラストノ回答ニ接シタルカ海關制度上右ノ如ク前例アリ且夫レカ寧口同人ノ榮轉ナルニ於テハ稅務司ノ任免カIGノ權限ニ屬シ居ル爲自分トシテハ之以上容喙スル餘地ナキ次第ナレハ御諒承ヲ請フト述ヘタルニ付

ニ、本使ヨリ元來岸本ハ累次説明セル如ク日支間ノ異狀ナル關係ノ爲一時賜暇歸國セシメ關係改善ノ上再ヒ現職ニ復歸スル方大局上ヨリモ亦同人ノCSノ地位保持ノ爲ニモ得策ナルヘシトノ日支兩當局ノ了解ノ下ニ自身ヲ犧牲ニシテ歸國シタルモノナレハ前記各種ノ例トハ同日ニ論セラルヘキ筋合ノモノニ非ス而シテ幸ヒ日支關係モ漸次改善セラレタルヲ以テ曩ニ本使ヨリ岸本復任方貴部長ノ了

ハ自分ハ復任ニ異存無シトノ言質ヲ與ヘ居ルニ拘ラス今日突然貴部長及「メーズ」ノ意思ニ反シタル任命ヲ見タルハ誠ニ合點ノ行カサル次第ナリト述ヘタル處

四、汪部長ハ總稅務司「メーズ」ノ言質ニ付テハ其ノ際何等報告ニ接シ居ラス先般唐次長カ上海ニテ貴公使ヨリノ話ヲ承リ始メテ承知セリ又今回ノ任命ハIG代理「ロウフオウド」カナセルモノニテ「メーズ」ト「ロ」トノ間ニ了解アリタリトハ思ハレス而シテ貴見ノ如クCSヨリ總稅務司ヘノ轉任カ左遷ト解セラルナラハ岸本ハ永久ニCSノ職ニ留リ之ヲ動カシ難キコトナリ政府トシテハ其處迄海關内部ノ人事ニ干渉スルヲ得サル立場ニ在リト述ヘタリ

(4) 依テ本使ヨリ自分ハ從來岸本ヲ永久ニCSノ職ニ留ムヘシト主張シタルコトナシト南京發閣下宛電報第九九九號末段本使ト汪院長トノ問答ヲ引用シタル上(汪モ之ヲ肯定シ居タリ)自分トシテハ此際岸本ヲ約束通リCSノ地位ニ復歸セシメ將來轉動等ノ議アリタル場合ニ於テハ日支間ノ特別ノ關係上及密接ナル貿易關係ニ鑑ミ同人カCSノ地位ニ在ルコトハ各地ニ發生スヘキ税關關係問題

解ヲ得タル次第ナレハ速ニ右約束ヲ實行サレタシ即チ本問題ハ日支關係ノ改善ヲ表示スルカ否カノ一ノ目標トシテ本使並ニ日本政府ニ於テ特ニ重視スル點ニ付深甚ノ考慮ヲ要スルモノニシテ普通ノ税關内人事ノ移動トシテ取扱フヲ得スト述ヘタルニ

(3) 汪部長ハ既ニ税關ニ於テ左遷ニ非スト認ムル以上兩國關係ノ改善上ヨリモ差支無キニ非サト説明セルヲ以テ本使ヨリ實際ニ於テモ左遷タルコトハ免レス即チ海關制度上及一般ノ考ニテモCSハIGノ次席ニシテ税關長ノ上ニ在ルノミナラス元來去ル三月「メーズ」賜暇歸國ノ際岸本ヲ漢口ニ任命方申出テ次天津ニ任命方ヲ申出タルモ日本トシテハCS復歸後ヲ重要視セル爲本使ヨリ之ヲ斷ハリ「メ」ノ歸國ヲ俟ツコトトセル行懸リモアリ是等ノ點ヨリ見テ今ニ至リ岸本ヲ天津ニ任命スルカ如キコトアラハ鮮カラス日本國民ノ感情ヲ害スル虞アルヲ憂慮スル次第ナリ加之本件ニ付テハ貴部長ハ先般總稅務司ニ於テ異存無クハ政府トシテハ何等異議ナシト言明セラレ孔財政部長モ須磨ニ對シ同様言明シ居ラレ他方總稅務司ニ於テハ前記同人賜暇歸國ノ節本使ニ對シ政府ニ異存無ク

ノ圓滑ナル處理上ヨリモ同人ヲCSノ職ニ留マラシムルカ兩國ノ爲利益ナル點ヲ考量ニ容レテ充分斡旋セラレンコトヲ希望スル次第ナリト述ヘタルニ對シ汪部長ハ然ラハ貴方トシテハ永久ニ岸本ヲCSニ居坐ラシムルコトヲ主張セラレス又我方トシテハ出來得ル限り岸本ヲCSニ復任セシムルヘシトノ原則ノ下ニ本件解決ノ辦法ニ付更ニ商議ヲ進メテハ如何(岸本ヲ一時CSニ復任セシメタル上改メテ天津ニ轉任セシムヘシトノ意嚮ヲ仄カシ居ルヤニ觀取セラレタリ)ト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ右様御願致度シ詳細ハ更ニ堀内ト唐次長トノ間ニ協議スルコトト致度ト述テ一ト先ツ會談ヲ打切りタリ

五、尙其ノ節唐有壬ハ同席ノ堀内ニ對シ先日本件辦法ニ付沈關係處長ト話合タルカ其ノ結果岸本ヲ直ニCSニ復任セシメ例ヘハ一二週間ノ後天津ニ轉任セシムルカ如キ案ナラハ税關側トシテモ受容レ得ルヤノ印象ヲ得タリト述ヘタルニ付堀内ヨリ一二週間ノ短期ニテハ問題トナラス相當ノ期間留任セシムルコト絕對ニ必要ナリト注意シ置ケル趣ナリ

支、北平ヘ轉電セリ

613 昭和9年12月30日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

岸本の地位は総税務司の次席にしたいとの我が
方要望を横浜寄港中のメーズへ申入れについて

本省 12月30日発

第三二五號

在京中ノ須磨ハ二十九日横濱寄港ノ「エンプレスヂヤパン」ニ「メーズ」ヲ往訪シ岸本問題ニ付左記要領ノ通會談セル趣ナリ(偶々「メ」ヲ來訪セル岸本モ同席ス)「メ」ヨリ種々辯解カマシキコトヲ申立タルニ付須磨ハ支那側トノ交渉ノ經緯ヲ告ケタル上支那側要人ノ所言ニ依レハ「メ」自身カ岸本ノ復任ニ反對シ居ルモノト解セサルヲ得ストキメ付ケ尙岸本ノ復任ヲ即時實現セシムルヲ要スルコト又日本ノ要求スル地位ハI・Gノ直ク次キノモノナルヘキコト等ヲ強ク言ヒ聞カセタルニ「メ」ハ御來意ハ自分ヨリ支那側ニ傳ヘ實現方努力スヘキカ若シ日本ノ要求通實現困難ナル場合何等カ辦法ナカルヘキヤト言ヘルニ依リ須磨ハ全然一個ノ「サゼツシヨン」ナルカI・Gノ直ク次キノ地位ト言フ日本ノ要求ニ顧ミ岸本ニD・I・Gノ地位ヲ與ヘテハ如何ト

ヘ我方ノ目的達成方此ノ上トモ御努力相成度

615 昭和9年12月31日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

本邦人の永続的な海關内第二位の地位死守の
ため岸本一時的復職案には賛成し得ないとの
立場を徹底方訓令

付記一 昭和十年一月十一日発在中国有吉公使より広

田外務大臣宛電報第一四号

岸本復任承諾の正式通知が孔祥熙より無き限り本件を承認できないとのメーズ見解について

二 昭和十年一月十一日発在中国有吉公使より広

田外務大臣宛電報第一五号

国民政府の岸本復職是認意向を孔祥熙の名義によりメーズへ電送した旨唐有壬通報について

三 昭和十年一月十三日発在中国有吉公使より広

田外務大臣宛電報第二〇号

条件付きながらも岸本の原職復帰を認めるメーズ非公式秘密書簡接収について

告ケ結局「メ」ハ成ル可ク貴意ニ添フ様努力スヘク來月中旬貴官歸任頃迄ニハ何分ノ御返事ヲナスヘシト約セリ
南京、北平ニ轉電セリ

614 昭和9年12月30日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

岸本復職問題解決を帰任後のメーズへ再度厳
重申入れ方訓令

本省 12月30日発

第三二六號

往電第三二五號ニ關シ

岸本問題ニ付テハ支那側ニ對シ極力「プレス」ヲ加ヘ居ラル、處一月一日「メーズ」歸任ノ上ハ(二十九日會見ノ際ノ須磨ノ印象ニ依レバ倫敦ニ於テハ「メ」ニ對シ本件ニ關スル我方ノ强硬ナル態度充分ニ徹底シ居ラサリシモノノ如ク從ツテ「メ」ハ二十九日ノ會談ニ依リ事態ノ「シーリヤスネス」殊ニ取扱振り如何ニ依リ現海關制度ニ及ホスコトアルヘキ重大ナル影響ヲ認識シタルヤニ認メラレタル趣ナルニ付此ノ點御含ノ上全人ニ對シテモ必要ノ「プレス」ヲ加

四 昭和十年一月十四日発在中国有吉公使より広
田外務大臣宛電報第二五号

メーズの条件付き復職案は積極的に支持し得ないが海關内部の岸本復職反對論に鑑み承認したき方針について

五 昭和十年一月十五日発広田外務大臣より在中
国有吉公使宛電報第六号

メーズ提示の条件付き案受諾容認および同条件の漏洩防止徹底方訓令

六 昭和十年一月二十一日付在中国有吉公使より
広田外務大臣宛公信機密公第五一号

岸本復職に関するメーズとの往復書簡および
覚書送付について

本省 12月31日後6時発

第三二七號

南京發本大臣宛電報第一二六九號岸本問題ニ關スル貴電ニ
關シ

支那側ニテハ岸本ノ一時的復任ヲ以テ問題ヲ片付ケムトス
ル魂膽ノ如キ處英國カI・G、ヲ保持スル間ハ我方ハ海關

ニ於ケル第二ノ地位タルC、S、ヲ保持セムコト即チ我方ハ永續のニ第二ノ地位ヲ有セムコトヲ期スルモノナリ而シテ「メーズ」等英國側ハ從來ノ經緯ニ顧ミ右我方ノ期待ヲ支持スヘキ義務アリ又支那側トノ間ニハ從來右様ノ行懸ハナキモ貴官ヨリ汪部長ニ對シ說示セラレタル通日本人カC、S、ニ止ルコトハ日支兩國ノ爲利益ニシテ然ルニモ拘ラス強テ岸本ヲ左遷セムトスルハ之即チ排日ナリトノ論據ニ依リ岸本ノC、S、復任ヲ一時的ナラシメサル様要求スルコト肝要ナリ殊ニ貴電末尾一二週間ノ復任ト云フカ如キハ全ク我方ヲ愚弄スル措置ニシテ我方ノ容認シ得サル所ナリ

就テハ以上ノ次第御含ノ上岸本ノ復任ハ期間ヲ限ラスシテ之ヲ實現セシムル様精々御努力相成度(此ノ際支那側ヲシテ日本人ヲ永久ニC、S、ニ止ラシムルコトヲ明確ニ約束セシムルコトハ或ハ困難ナルヘキモ少ク共期間ヲ限ラシメサルコトヲ要ス而シテ右ノ如クニシテ復任實現シタル上ハ前記「メーズ」等英國側ニ對スル我方ノ立場及支那側ニ對スル論據ヲ可然活用シ岸本カ引續キC、S、ニ止ルコトヲ可能ナラシメサルヘカラスト存ス)以上御如オナキコト、

同人ヨリ在英大使發閣下宛電報第五二八號ノ如ク「ローフオード」宛電報シタルコト並ニ「ロ」ヨリ「メ」宛岸本ヲ天津ニ任命シ度キ旨電報來リ「メ」ハ折返シ天津稅關長「ボス」ヲ動カスハ宜シカラスト返電セルニ拘ラス(往復電報ハ記錄ニアル由)上海ニ於テ岸本ヲ天津ニ任命セル次第二シテ

自分カ日本側ニ對スル約束ニ反シ岸本ヲ天津ニ任命セリトノ非難ハ全然根據ナキモノナリトテ「メ」カ始終日本ノ爲ニ盡セルコトヲ話シタリ依テ堀内ヨリ本件ニ關スル我方ト「メ」及支那側トノ話合ノ經緯ヲ繰返シタル上「メ」ハ客年南京發閣下宛電報第一一五三號及第一一七九號ノ如キ孔部長ノ電報ヲ受取り居ラスト言ヲ挾メリ唯今ノ説明ニ依リ岸本ノ天津任命カ「メ」ノ意思ニ反シテ行ハレタルコトヲ了解シタルカ右ハ極秘ニ支那政府ノ意思ニモ反シテ行ハレタルモノナレハ今ヤ「メ」カIGノ職ヲ résuméセル以上(七日引繼キタル旨通知アリ)「メ」ニ於テ之ヲ是正シ速ニ岸本ノ復任ヲ見ル様處置セラルルモノト考ヘラレ公使ニ於テモ兩國關係ノ爲及關稅制度ノ維持上ヨリモ「メ」ニ於テ右ノ處置ヲ執ラレルモ

存スルモ念ノ爲
南京、北平ニ轉電セリ

(付記一)

上海 昭和10年1月11日後発
本省 昭和10年1月12日前着

第一四號

客年貴電第三二六號ニ關シ

「メーズ」歸滬後ノ態度等ニ付差當リ八日横竹ヲシテ「カボン」ニ就キ夫レト無ク探ラシメタル處「メ」ハ其ノ後宋子文ニ會見セルモ孔部長ニハ未タ會見シ居ラス「カ」ハ「メ」ニ對シ着任後直ニ岸本問題解決ノ急務ヲ説キ速ニ孔部長及宋子文ニ會見方建言シタル趣ナリ最近「カ」ヨリ電話ニテ尋ネタル處「メ」ハ宋子文ニ會ヒタル旨ヲ述ヘ且 I can manage all right ト答ヘ居タルカ其ノ意味ハ「カ」ニ於テモ明白ナラスト述ヘ居タル趣ナルニ付不取敢九日堀内ヲシテ「メ」ニ對シ速ニ復任取計方申入レシメタル結果左ノ通

「先ツ「メ」ヨリ岸本賜暇以來ノ本件經緯ヲ繰返シタル上

ノト多大ノ期待ヲ有シ居ラルル次第ナリト述ヘタリ

「右ニ對シ「メ」ハ日本側ニ於テ自分カ曩ニ提議シタル一旦漢口ニ任命シ次テCSニ歸ス案ヲ拒絕セラレタル結果トシテ岸本復任ノ問題ハ既ニIGノ取扱ヒ得ル問題ヲ超越シ多分ニ official airヲ帶フルニ至リタル次第ナレハ自分ニ於テ岸本復任ヲ取計ヒ得ルニハ少クトモ先ツ財政部長ヨリ自分ニ命令アルコトヲ必要トスルト述ヘタルヲ以テ

堀内ヨリ既ニ汪院長及孔部長ヨリ復任ニ異存ナキ旨公使及須磨ニ言明セル以上財政部長ノ意思ハ明白ナレハ「メ」ノ言分ハ餘リニ形式論ナリ加之自分ノ了解スル處ニテハ稅關吏ノ任命ハIGノ權限ニ屬スル理ナレハ財政部長ニ於テ命令スヘキ筋合ニ非ス此ノ際「メ」ニ於テ單ニ復任ニ異存ナシトノ消極的態度ヨリ更ニ一步ヲ進メ任命ヲ實行セラレンコトヲ希望スト述ヘタルニ「メ」ハ自分トシテハ未タ政府ニ於テ異存ナキ旨ヲ財政部長ヨリ通知サレ居ラサルヲ以テ右財政部長ノ意思表示(命令タルヲ要セスト説明セリ)ナキ以前ニハ復任ヲ「レコメンド」シ得ストテ其ノ理由ニ付前言ヲ繰返シタル上自分ノ思付キトシ

テハ公使ニ於テ此ノ際財政部長ニ會ハレ同部長ヨリ自分ニ對シ右ノ如キ意思表示ヲスル様仕向ケラルコト最モ適當ト思考スト述ヘ此ノ點ニ付數回押問答ヲ重ネタルカ遂ニ「メ」ヲ説得スルヲ得ス

三、依テ堀内ヨリ自分トシテハ「メ」ニ於テ進ンテ岸本復任ヲ取計ヒ得サルコトヲ遺憾トスルモノナルカ「メ」ノ話ハ其ノ儘公使ニ傳ヘ其ノ結果更ニ話合フコトトスヘシトテ辭去セリ(尙堀内ヨリノ質問ニ對シ「メ」ハ歸來後末テ孔部長ニ面會シ居ラサルコト及茲一週間位ノ中ニハ會フ積リナリト述ヘ居タル趣ナリ)

北平、南京へ轉電セリ

(付記二)

上海 昭和10年1月11日後発
本省 昭和10年1月11日後着

第一五號

往電第一四號ニ關シ

「メ」ニ於テ執拗ニ孔部長ノ意思表示ヲ必要トスルハ或ハ同人ニ於テ孔部長復任ニ反對ナリトノ印象ヲ有シ居リ從テ

之ト直接接觸スルコトヲ躊躇シ居ル爲ナルヤニモ考ヘラル(尤モ同電ニ末段同人ノ「サゼツシヨシ」ハ本使ニ於テ取合フヘキ筋合ニ非サルモ)此ノ際孔部長ヨリ同人ニ對シ復任ニ異存無キ旨ノ意思表示ヲナサシムル様仕向ケルコトハ問題解決上ノ捷徑ト存セラルル處當方トシテモ客年南京發閣下宛電報第一二〇三號沈國務署長ノ態度等ヨリ見テ孔部長ニ於テ直ニ本使ノ説得ニ從フヤハ相當懸念セラレ旁本件ニ付テハ差當リ汪精衛ヲシテ孔ヲ説得セシムルコト得策ト存セラレタルニ付九日堀内ヲシテ赴寧唐有壬ニ申入レシメタル結果左ノ通り

十日午後三時半堀内唐有壬ヲ往訪セル處唐ハ實ハ貴下ニ御傳ヘシタキコトアリトテ昨九日汪院長孔部長及自分ト三人協議ノ上孔部長ヨリ岸本問題ニ關スル從來ノ經過ヲ示ス書類ヲ全部「メ」ニ交付シタル上本件取扱ヲ「メ」ニ一任スルヲ云ヒ渡スコトニ打合せ其ノ節汪院長ヨリ孔ニ對シ「メ」ニ於テ責任ヲ上司ニ轉嫁スルカ如キコト無キ様注意方ヲ依頼セル趣ヲ語リタリ

(2) 依テ堀内ヨリ昨日「メ」ト會談ノ要點ヲ述ヘタル上右會談ノ印象ニ依レハ「メ」ハ岸本ノ天津任命ハ自分及支那

(付記三)

上海 昭和10年1月13日後発
本省 昭和10年1月13日後着

第二〇號

往電第一五號ニ關シ

(1) 十二日午後「メ」本使ヲ來訪シ岸本問題ノ從來ノ經過特ニ岸本ノ天津任命カ同人ノ意思ニ反シ「ローフオウド」ノ專斷ニ依リ行ハレタルコト及「メ」ニ於テ常ニ日本ノ利益ヲ尊重シテ行動シ居ルコトヲ詳述シタル後自分ハ本問題解決ノ爲一ノ案ヲ考案セリトテ「メ」ヨリ本使宛ノ非公式秘密書翰案ヲ讀上ケタルカ右ハ(イ)岸本ヲ直ニC Sニ復任セシムルコトヲ通知スルト共ニ(ロ)右復任ハ同人カC Sノ職ニアルコトハ必スシモ永久的ナラス海關内部通常ノ例。規。ニ從ヒ異動ストノ了解ノ下ニ之ヲ行フモノナル旨ヲ附言セルモノニシテ(ハ)本使ニ於テ右ヲ了承スル仕組ノモノナルカ右ニ付「メ」ハ右(ロ)ハ單ニ一通リノ主義ヲ明カニスル趣意ニ過キス岸本復任ニ對スル海關内部支那人ノ猛烈ナル反對ヲ抑ヘル唯一ノ途ニシテ日本側ニ於テ此ノ點ヲ認メラレストセハ本問題解決ノ方法ハ到底見出シ難キ次第ナレハ是非トモ

北平、南京へ轉電セリ

右承認方貴公使ノ御盡力ヲ願度シト述ヘタルニ付

三本使ハ日本側トシテハ海關現制度ノ維持上及日本ノ對支貿易ノ複雑ナル關係ヨリ見テ日本人カ長クI^c、G^sノ地位ニ在ルコトヲ必要ト認メ居リ右ハ芳澤「ランブソン」間ノ了解以來英國側ニテモ充分了解シ居ル次第ナレハ右(四)ノ趣旨ヲ書物ニ殘スコトハ面白カラス何トカ別ノ考案ナキヤト述ヘタルニ「メ」ハ右日本側ノ希望ハ自分モ良ク諒解シ居ル所ナレハ右往復書翰ニ拘ラス自分カ在職中ハ事情ノ許ス限リ轉任セシムルコト無キコトハ茲ニ確言シ得ル處ナルモ前記日英間ノ了解ハ支那側ニ對抗シ難ク前記(四)ノ趣旨ヲ附言スルコトハ紛糾セル本問題ノ解決上絕對必要ニシテ實ハ右私案ハ未タ孔部長ノ了解ヲ得居ラサルモノナルカ貴公使ニ於テ右ニ同意セラルルナラハ自分ニ於テ孔部長ノ同意ヲ取付クル様盡力スル積リナレハ枉ケテ承認セラレタシト述ヘタリ

三前記「メ」ノ私案中(四)ヲ附言スルコトハ客年貴電第三二七號ノ如ク頗ル不満足ナルコト勿論ナルカ右ハ「メ」ノ説明ニ拘ラス冒頭往電ノ經緯ニ鑑ミ恐ラク汪、孔等協議ノ結果ナルヤニモ考ヘラレ本問題ヲ今日ノ如ク紛糾セシメタル

第二五號

往電第二〇號ニ關シ

件 雜 六

十四日夕「メーズ」來訪本使宛書翰ヲ手交シ日本側ニテ承認方本使ノ盡力ヲ求メタルニ付本使ヨリ右書翰ヲ了承スル本使往翰ニ於テハ冒頭往電三後段ノ趣旨ヲ附言スル積リナリトテ其ノ案文ヲ見セタル處「メ」ハ右ノ趣旨ハ貴公使ヨリ汪院長及孔部長ニ屢申入レ居リ自分モ充分諒解シ居ル處ナレハ今更之ヲ此ノ際文書ニセラルル必要モ無カル可ク加之本件解決方法ハ實ハ孔部長トモ協議ノ上海關内支那職員ノ猛烈ナル反對ヲ抑ヘ貴方ノ希望ニ副ヒ得ル唯一ノ方法トシテ決定シタルモノナレハ貴方ニ於テ之カ承認ニ對シ前記ノ如キ條件ヲ附ケラルルニ於テハ岸本ノ復任ハ永久的ナリトテ反對者ニ更ニ氣勢ヲ擧ケシム可キコト必然ニシテ之カ爲更ニ一層ノ紛糾ヲ來シ自分トシテハ之カ解決ヲ計ル途無キニ至ル可ク又今日岸本カ外部ニ在リテハ何事モ致シ難キモ一度復任スルニ於テハ之カ地位維持ニ付テハ自分ニ於テモ充分盡力シ得ヘシトテ無條件承認ヲ求メ本使ヨリ我方ノ立場ヲ繰リ返シ説明シタルモ遂ニ「メ」ヲ承服セシムルヲ得ス右ニ就テハ冒頭往電(三)後段申進ノ困難ナル事情ノ外前

海關内部支那人ノ反對ヲ抑ヘテ之カ解決ヲ計ルニハ右以上有利ナル方策ヲ講セシムルコト到底不可能ナルノミナラス「メ」ニ於テ前記ノ如ク言明シ居ル以上早急ニ岸本ノ轉任ヲ云々スルカ如キコトナカルヘク一度復任スル以上萬一問題起ルモ我方ノ立場ヲ強ク主張スルコト必スシモ困難ナラスト存セラル尤モ右「メ」ノ來翰ヲ了承スルニ當リテハ日支兩國ノ重要且複雑ナル貿易關係ニ鑑ミ我方トシテハ日本人カ常ニC、S、ノ地位ニ在ルコトヲ希望スルモノナル旨ヲ附言スルコトト致度シ

右ニ付テハ更ニ御意見アルヘキモ本問題今日ノ實情ニ鑑ミ右ニテ解決スル積リナルニ付枉ケテ御了承ヲ請フ

尙其ノ節本使ヨリ貴電第三號岸本賜暇延期ノ件ニ言及セル處「メ」ハ延期ノ手續ニ付テハ詳シク記憶セサルニ付何レ取調ノ上自分ニ於テ適當處置スヘシト述ヘ居タリ

南京、北平ニ轉電セリ

(付記四)

上海 昭和10年1月14日後発
本省 昭和10年1月15日前着

記「メ」ノ實狀説明ニモ鑑ミ已ムヲ得ス無條件ニ先方來翰ヲ承認スルコトスル積リナリ

右枉ケテ御了承ヲ請フ萬一御異存アラハ折返シ御同示アリタシ

北平、南京へ轉電セリ

編 注 その後、「(三)後段」を削除するよう訂正電報あり。

(付記五)

本省 昭和10年1月15日後0時25分発

第六號(大至急)

貴電第二〇號ニ關シ

事情止ムヲ得サルモノト認メ御來示ノ解決方法ヲ承認ス尤モ斯クシテ一應解決ノ上我方トシテハ往電第三二七號末尾括弧内ノ趣旨ノ工作ニ依リCSヲ永續的ニ我方ニ保持スル様極力努力スヘキ次第ナルカ冒頭貴電一「メーズ」貴公使間ノ往復書翰殊ニ貴公使ノ「メ」宛復翰ノ「レダクシヨ」ヲ今後ニ於ケル該工作ノ爲出來得ル限り有利ナラシムル様御配慮相成度尙右書翰往復ノ結果支那側ニテ岸本ノ復任ハ

一時的ノモノナリ等宣傳スル虞アルニ付先方ニ於テ本件書翰殊ニ冒頭貴電(四)ノ點ノ秘密ヲ嚴守シ苟モ新聞等ニ漏洩スルカ如キコトナキ様充分ニ念ヲ押シ置クコト肝要ナリ此ノ邊御如才ナキコトトハ存スルモ念ノ爲

(付記六)

機密公第五一號

(昭和10年1月29日接受)

昭和十年一月二十一日

在中華民國

特命全權公使 有吉 明〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

岸本復任方ニ關スル本使「メーズ」間往復文書寫

送付ノ件

本件ニ關シテハ既ニ電報ヲ以テ報告申進置タル處本件關係往復文書寫別紙甲號(二月十四日附「メーズ」來翰)乙號(一月十六日附本使往翰)丙號(右乙號手交ノ際ニ於ケル「メーズ」及丁號(右乙號及丙號ヲ閱悉セル旨ノ一月十九日附「メーズ」返翰)ノ通致許送付ス

尙本件文書ハ絕對ニ外部ニ發表セサル双方ノ了解ナルニ付

取扱上特ニ御注意ヲ請フ
本信寫送付先 北平 南京

(別紙乙號)

CONFIDENTIAL

JAPANESE LEGATION IN CHINA,

Shanghai, January 16th, 1935.

Dear Sir Frederick,

I have received your letter of January 14th stating : -

"I find on my return from short leave that some misunderstanding has arisen in respect of Mr. Kishimoto's resumption of duty on the expiration of his leave, and as the case is of a routine administrative nature it follows that it should be settled by the Inspector General : this premised, I am recommending that he be re-appointed for the time being to the post of Chief Secretary ; and I avail myself of the opportunity to remind Your Excellency that according to established Customs practice and standing regula-

SHANGHAI.

(別紙丙號)

CONFIDENTIAL

JAPANESE LEGATION IN CHINA,

In handing over the letter of acknowledgement of to-day's date with respect to Mr. Kishimoto's re-appointment to Sir Frederick Maze, Mr. Ariyoshi stated that in view of the importance and complexity of the commercial relations between Japan and China he thinks it useful to both countries to have a Japanese subject in the post of Chief Secretary.

Sir Frederick has noted the above remarks.

Shanghai,

January 16th, 1935.

(別紙丁號)

CONFIDENTIAL

tions the appointments either of Inspectorate Secretaries or port Commissioners are not of a permanent nature, that is to say the appointees concerned are liable to be removed from the charge of Secretariats or transferred from port to port at the discretion of the competent authorities and in conformity with Service requirements. And seeing that Mr. Kishimoto's re-appointment is subject to the above conditions, I should be glad to learn that this is clearly understood by Your Excellency ?"

and, with reference thereto, I wish to state that I understand that Mr. Kishimoto's re-appointment will be made under the conditions and in the circumstances mentioned in your letter.

Yours sincerely,

Signed : A. Ariyoshi.

Sir Frederick Maze,

etc., etc., etc.,

Inspectorate General of Customs,

(INSPECTORATE^{a)})
INSECTRATE GENERAL OF CUSTOMS,

Shanghai, 19th January, 1935.

Dear Monsieur Ariyoshi,

I beg to acknowledge receipt of Your Excellency's letter of 16th January in reply to my letter of the 14th instant; and of your Note also dated 16th instant explaining Your Excellency's views regarding Mr. Kishimoto's case.

Yours sincerely,

Signed: F. W. Maze.

To:

His Excellency

Monsieur A. Ariyoshi,

etc., etc., etc.,

SHANGHAI.

編注 岸本のチーフ・セクレタリー復職は昭和十年二月四

日に実現し、本件は翌五日発在中國有吉公使より広田外務大臣宛電報第一一〇号にて報告された。

2 蔵本書記生失踪事件

616 昭和9年6月9日 在南京須磨総領事より
広田外務大臣宛(電報)

蔵本書記生失踪について

南京 6月9日前発
本省 6月9日後着

第六二六號(大至急)

公使ノ歸滬ヲ見送ルヘク八日午後十時半頃辻自動車雇入ノ爲單身當館構外ニ出テタル藏本ハ公使ノ見送ヲ行ヒ得サリシノミナラス本九日ニ至ルモ歸宅セス館員及警察署員全部ニテ夜半ヨリ邦人宅ヲ尋ネ見タルモ(館員カ邦人宅以外ノ場所ニ外泊スルコト無キ當地實狀ハ御存シノ通り)未タニ(午前十一時)同人所在ヲ突止メ得ス

件 同人カ個人的理由ニ依リ失踪セルモノトハ思考セラレサルモ今少シク事態ヲ正確ニ見極ムル必要モアリ早朝不取敢館員及警察署長ヲシテ夫々外交部、警察廳、憲兵隊ニ申入レシメ置キタルカ本日中ニ同人ニ關スル情報無ケレハ本官ヨリ外交部及直接警備責任者ニ對シ嚴重申入ヲ爲ス積リナリ

617 昭和9年6月9日 在南京須磨総領事より
広田外務大臣宛(電報)

蔵本失踪の原因として考えられる諸事由について

南京 6月9日後発
本省 6月10日前着

第六二七號(至急)

⁽¹⁾ 往電第六二六號ニ關シ

藏本行衛不明事由ニ付大体左ノ如キ場合ヲ考ヘ得

一 憲兵隊ノ行爲

藏本ハ最近金^〇益^〇鎮引渡問題(北平警察署長ヨリ三月三日附ヲ以テ金ハ昭和六年五月以來北平大學文科ニ在學シ居タル朝鮮人ニテ八年一月行衛不明トナリタルカ調査ノ結